

平安京左京五条三坊五町跡・
烏丸綾小路遺跡

平安京左京五条三坊五町跡・烏丸綾小路遺跡

2008 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京五条三坊五町跡・

烏丸綾小路遺跡

2008 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

歴史都市京都は、平安京建設以来の永くそして由緒ある歴史を蓄積しており、さらに平安京以前に遡るはるかなむかしの、貴重な文化財も今なお多く地下に埋もれています。財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、これまでに多くの遺跡の発掘調査を実施し、地中に埋もれていた古都の過去の姿を多く明らかにしてきました。

これらの調査成果は現地説明会、京都市考古資料館での展示、写真展あるいはホームページを通じて広く公開し、市民の皆様へ京都の地域の歴史に対し関心を深めていただけるよう努めております。

当研究所では、平成 13 年より個々の発掘調査の概要をまとめた報告書を刊行しており、その成果を公表しています。

このたび、施設新築工事にともなう平安京跡・烏丸綾小路遺跡の発掘調査成果をここに報告いたします。本報告書の内容につきましてご意見、ご批評をお聞かせいただけますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当遺跡の調査に際してご協力ならびにご支援たまわりました関係者各位に厚く感謝し、お礼申し上げます。

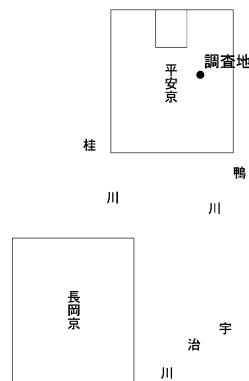
平成 20 年 10 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京左京五条三坊五町跡・烏丸綾小路遺跡
- 2 調査所在地 京都市下京区高辻通室町西入繁昌町 290 番地
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 門川大作
- 4 調査期間 2008 年 3 月 7 日～ 2008 年 5 月 26 日
- 5 調査面積 210 m²
- 6 調査担当者 平田 泰
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺 1:2,500）「壬生」「三条大橋」「島原」「五条大橋」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系 VI（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 平田 泰
- 14 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。



(調査地点図)

0 2 4km

目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査の経緯	1
(2) 位置と環境	2
(3) 周辺の調査	4
2. 遺 構	8
(1) 基本層序	8
(2) 検出遺構	10
3. 遺 物	17
(1) 遺物の概要	17
(2) 出土土器	17
4. ま と め	25

図 版 目 次

図版 1	遺構	1	桃山時代から江戸時代全景（北から）
		2	平安時代後期から室町時代全景（東から）
図版 2	遺構	1	弥生時代末から古墳時代初め全景（東から）
		2	流路 218・旧流路セクション（北東から）
図版 3	遺構	1	井戸 200（東から）
		2	井戸 130（東から）
図版 4	遺物		出土遺物 1
図版 5	遺物		出土遺物 2

挿 図 目 次

図 1	調査位置図（1：2,500）	1
-----	----------------	---

図2	四行八門地割による調査区位置図（1：1,500）	2
図3	調査区配置図（1：1,000）	3
図4	調査前全景（東から）	4
図5	調査風景（北東から）	4
図6	周辺調査位置図（1：5,000）	5
図7	基本層序図（1：40）	8
図8	弥生時代末から古墳時代初めの遺構平面図（1：100）	9
図9	流路218・旧流路・下層流路断面図（1：50）	10
図10	平安時代後期から室町時代の遺構平面図（1：100）	11
図11	井戸200・130実測図（1：80）	12
図12	桃山時代から江戸時代の遺構平面図（1：100）	13
図13	井戸15・26・53・100実測図（1：80）	14
図14	井戸4・11・19・29実測図（1：80）	15
図15	井戸1実測図（1：80）	16
図16	弥生時代末から古墳時代初めの遺物実測図1（1：4）	18
図17	弥生時代末から古墳時代初めの遺物実測図2（1：4）	19
図18	弥生時代末から古墳時代初めの遺物実測図3（1：4）	20
図19	平安時代前期から中期の遺物実測図（1：4）	20
図20	平安時代後期から江戸時代の遺物実測図（1：4）	21
図21	江戸時代前期の遺物実測図（1：4）	22
図22	江戸時代中期の遺物実測図（1：4）	23
図23	江戸時代後期の遺物実測図（1：4）	23

表 目 次

表1	遺構概要表	16
表2	遺物概要表	24
表3	掲載遺物一覧表	26

平安京左京五条三坊五町跡・烏丸綾小路遺跡

1. 調査経過

(1) 調査の経緯

京都市下京区高辻通室町西入繁昌町 290 番地にある元京都市立成徳中学校敷地で、下京中学校施設新築工事が計画された。敷地は平安京左京五条三坊五町跡にあたり、下層は烏丸綾小路遺跡として周知されている。当地では昭和 55 年度に成徳中学校体育館建設に伴う発掘調査が実施され、弥生時代から古墳時代の土坑、平安時代から室町時代、江戸時代の井戸、土坑などが検出されている。このため、京都市文化財保護課は対象地区の発掘調査を指導し、京都市は財団法人京都市埋蔵文化財研究所に調査を委託する運びとなった。

調査は、2008 年 3 月 7 日から開始した。当初は機械力による近・現代の盛土を排土する作業から開始し、終了後から検出作業、遺構の掘込みなどの本格的な発掘調査に入った。調査では弥生時代末から古墳時代初めの遺構、平安時代後期から室町時代の遺構、桃山時代から江戸時代の遺

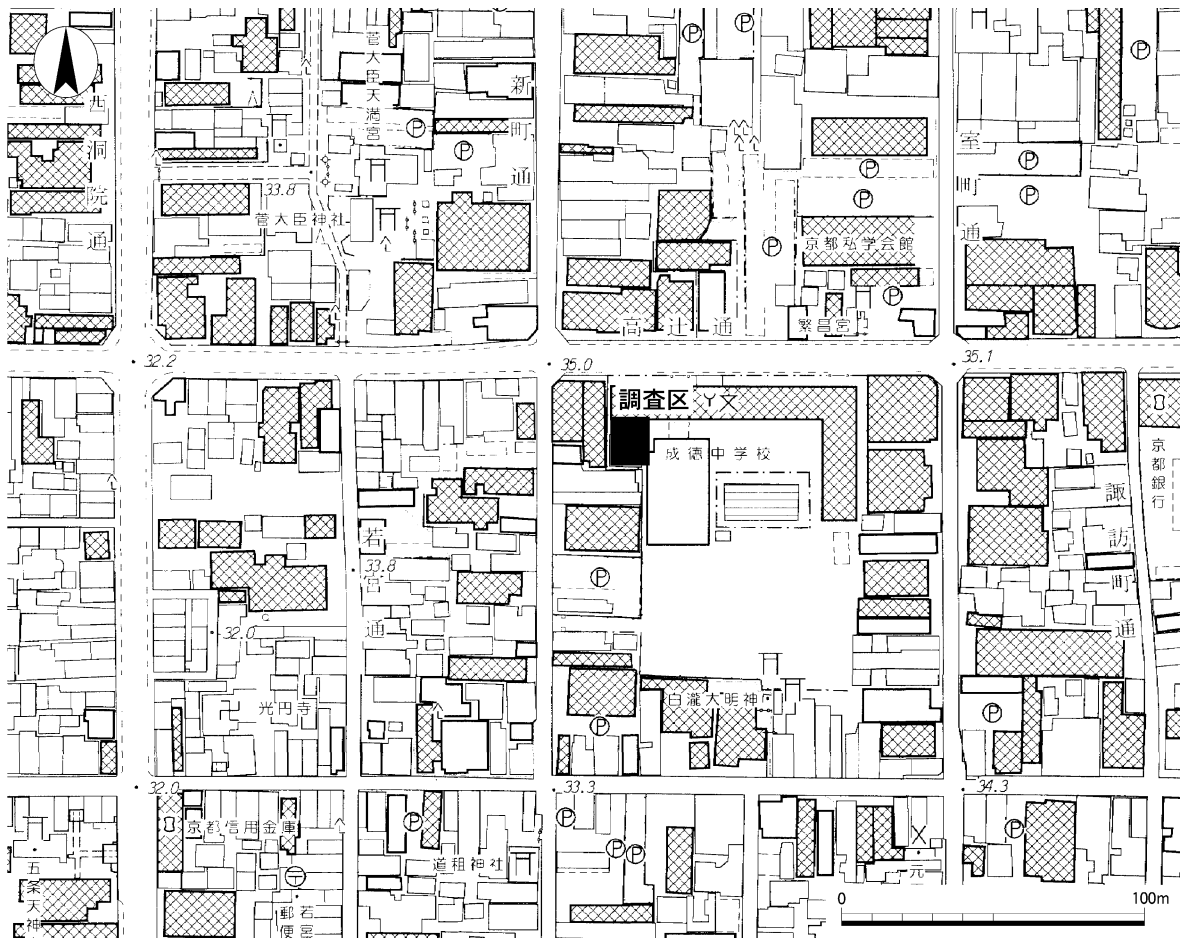


図1 調査位置図 (1:2,500)

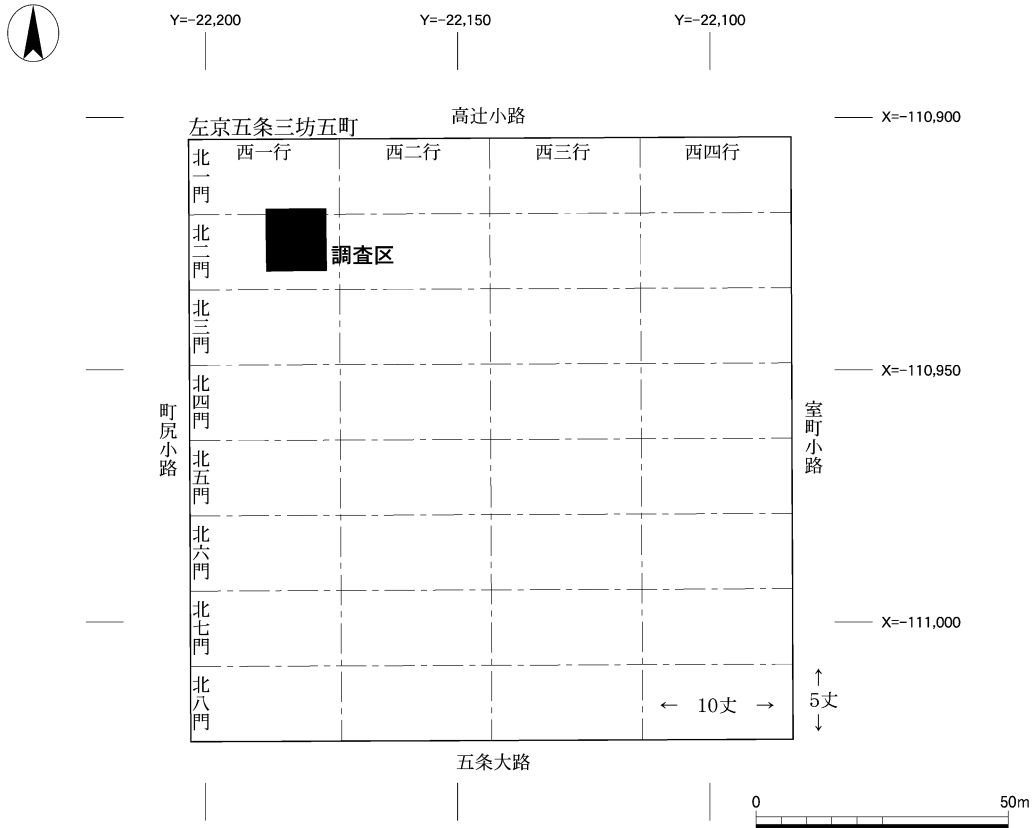


図2 四行八門地割による調査区位置図（1：1,500）

構を検出し、各遺構面の写真撮影、図面類を作製、5月26日までに下層遺構の確認などの補足調査を実施して、調査を終了した。調査面積は約210㎡を測った。

調査中の3月27日には、グラウンド整備に係る地盤環境調査に伴う5箇所の掘削作業に立ち会い、写真撮影、図面作製などを行っている。

調査区の設定時から調査終了までの各期にわたる文化財保護課による指導と、鈴木久男氏（京都産業大学）、高正龍氏（立命館大学）より遺跡調査の検証と評価を頂いた。記して感謝の意を表したい。

（2）位置と環境

調査地は烏丸通から高辻通を西に入り、室町通と新町通に挟まれた南側に位置する。四条大橋付近から西に緩い蛇行を見せる鴨川の約1km西方で、地形が新町通を境に西洞院通・堀川通方向に下がり始める位置にある。標高は地表面で35.00mとなる。四条烏丸一帯から調査地にかけては最終氷河期極相（約1万8千年前）までに形成された賀茂川の扇状地性の礫層が堆積する。この後、急速な温暖化が始まり縄文海進が進むが、極相期を迎えた約6千年前に一時的な寒冷化による小扇状地性の堆積があり、起伏を持った湿地や微高地が形成された。この微高地上に弥生期の集落跡が立地する。集落跡の西側は谷や低湿地が広がり、旧河川が北東方向から南西方向に流下していた。平安京造営直前までこの地形は大きく変化しておらず、造営時に旧河川を西洞院川

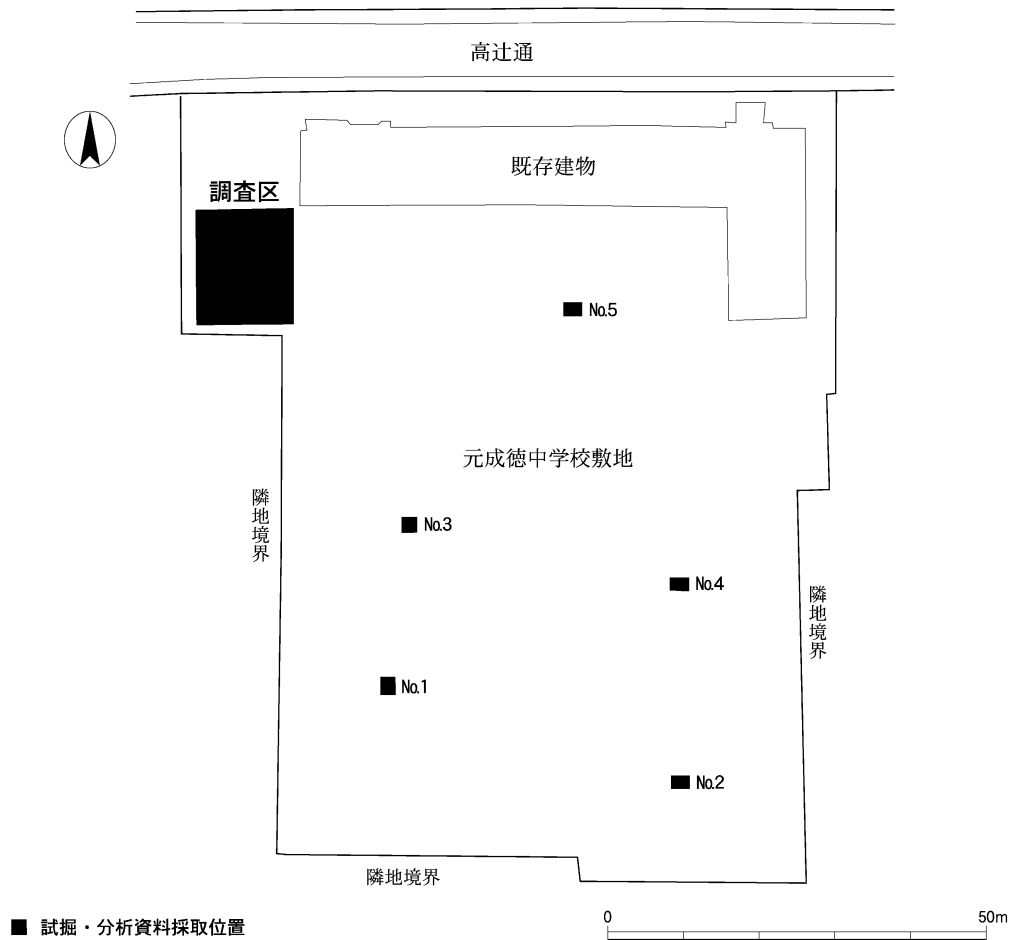


図3 調査区配置図（1：1,000）

や堀川として南北方向に直線化する改修が施されたとみられよう。

烏丸綾小路遺跡は、四条烏丸周辺とその南西部に広がる弥生時代から古墳時代初めにかけての遺跡であるが、鴨川西岸一帯の旧河川に沿った地区には平安京造営以前の遺跡が数多く展開する。烏丸綾小路遺跡の北、烏丸通と御池通交差点一帯には弥生時代から古墳時代の烏丸御池遺跡、その北方の烏丸丸太町周辺と京都御苑南部一帯には縄文時代晩期から弥生時代後期、古墳時代後期から飛鳥時代の烏丸丸太町遺跡、烏丸中立売とその西側には弥生時代の遺物包含層が確認された内膳町遺跡がある。一方、堀川沿いには堀川丸太町を中心にした弥生時代の二条城北遺跡、堀川御池から二条城南東部に縄文時代から古墳時代の堀川御池遺跡が確認されている。

平安京が造営されると、調査地の元成徳中学校敷地は左京五条三坊五町地となる。五町地の北西、二町、三町地は菅原道真の邸宅である紅梅殿、白梅殿として有名であり、特に白梅殿は道真の誕生地と伝承される。現在それぞれに菅大臣天満宮、菅大臣神社が鎮座する。調査地の北側、六町地には繁昌社があり、針才女や班女祠の由来を伝承する小祠を残す。調査地の南東には玉津嶋神社、北西の十一町には日吉神社、十四町には八坂神社御旅所である祇園大政所、十五町には稲荷大明神などの古社がある。五条三坊地を中心にした四条東洞院から西洞院松原のかけての一带には古社、小祠が多く、祇園祭に10基もの山鉾を出すなど祭儀を執りしきる主要地区でもある。多くの



図4 調査前全景（東から）



図5 調査風景（北東から）

神社、祭神、祭礼が前代の治績を顕彰し、これを後世に伝えたものとするなら、下層一帯に展開する弥生時代から古墳時代初めにかけての集落跡である烏丸綾小路遺跡の消長を反映した可能性があり、無縁のものとするべきではなからう。

参考文献

京都市『京都の歴史1』平安の新京（株）学芸書林 1970年

京都市『史料京都の歴史』第12巻 下京区（株）平凡社 1981年

横山卓雄『平安遷都と鴨川つけかえ』法政出版（株） 1988年

横山卓雄『京都の自然史』（株）京都自然史研究所 2004年

京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課『京都市遺跡地図台帳』[第8版] 京都市文化市民局 2007年

（3）周辺の調査

左京五条三坊地である四条烏丸交差点付近から調査地にかけては、平安京下層遺跡である烏丸綾小路遺跡として周知されている。当遺跡に関係したとみられる遺構・遺物が検出された調査例を中心に検討したい。

遺跡発見の嚆矢は、昭和49年（1974）に実施された調査1で、烏丸仏光寺交差点北約50mの烏丸通の中央であった。南北と西を上層の遺構で削平された浅い土坑が検出され、弥生時代末の甕、壺、高杯、器台がほぼ完形で出土した。他に縄文時代晩期の深鉢片、弥生時代前期の石包丁1点も含まれていた。

2年後の昭和51年（1976）には、調査2が実施され、調査1で検出した土坑の北約15mで東西方向の幅2m、深さ0.8mの溝を検出し、弥生時代末の甕などが出土している。

調査3は、蛸薬師通烏丸東入蓬社町293で、昭和54年（1979）に実施され、弥生時代と古墳時代の土器類が出土した。遺物包含層である暗灰色粘土層と灰色砂礫層の境付近から多く出土し、灰色砂礫層中からの出土もあるとされる。弥生土器は前期と後期のもの、古墳時代は6世紀の須恵器杯、甕があり、多くに流れ堆積による磨滅痕が確認されている。

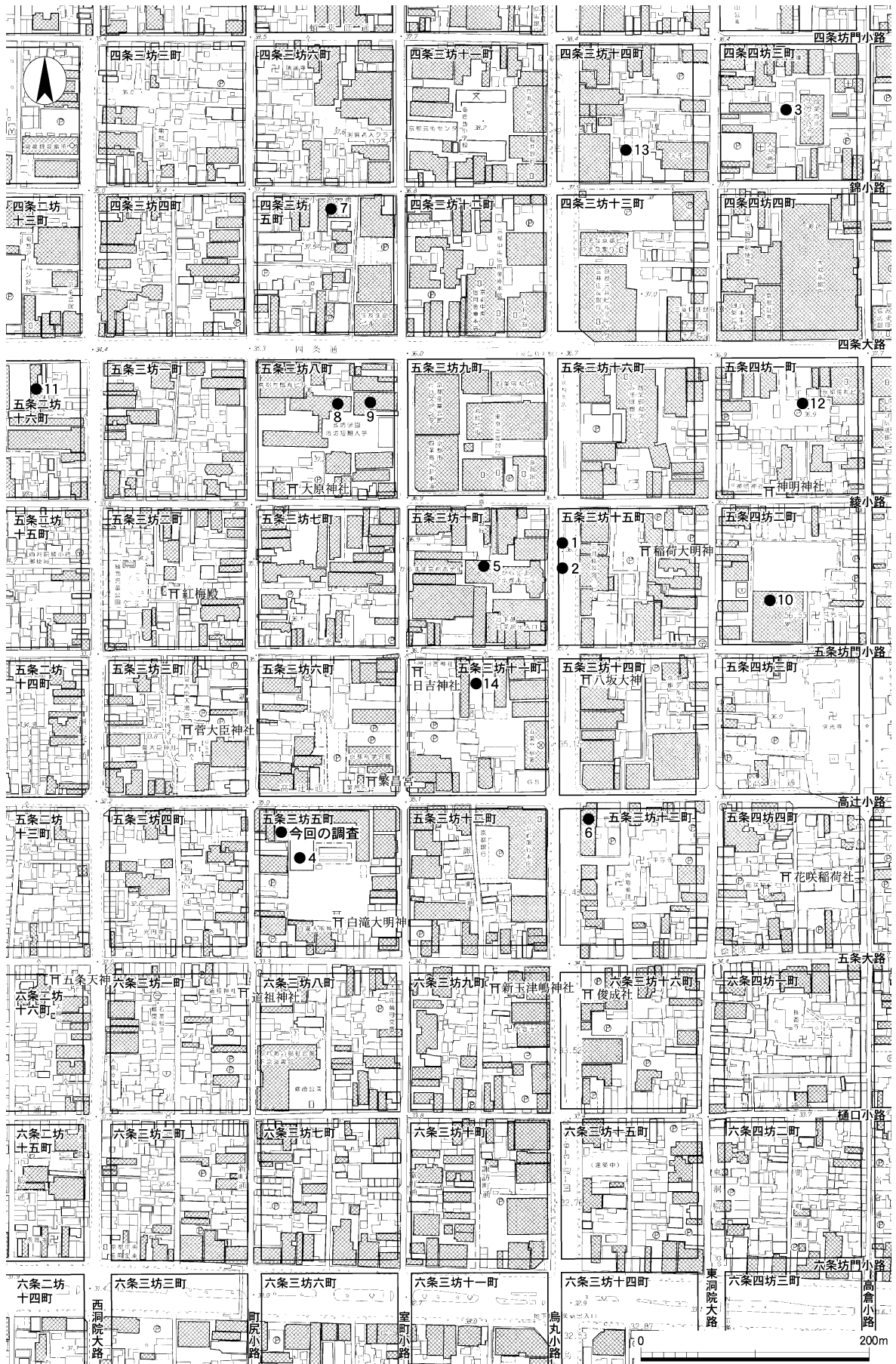


図6 周辺調査位置図 (1 : 5,000)

調査4は、高辻通室町西入成徳中学校で、昭和55年(1980)に体育館新築に伴う調査として実施された。調査では弥生時代末から古墳時代初めの土器を包含する土坑が検出された。

調査5は、烏丸通綾小路下る二帖半敷町652で、昭和56年(1981)に実施された。調査では古墳時代の遺構面が検出され、円形に周る溝や住居跡状の遺構を検出している。

調査6は、烏丸通松原上る因幡堂町661で、昭和56年(1981)に実施された。調査では北東から南西方向に流れた古墳時代の流路の北肩が検出され、古式土師器、土師器、須恵器などが出土した。

調査7は、錦小路通室町西入で、昭和57年(1982)に実施された。調査では弥生土器が出土したが、後世の遺構に混入したものである。

調査8は、四条通油小路東入傘鉾町で、平成元年(1989)に実施された。調査では土坑と溝が検出された。溝は約2.5mにわたって溝状遺構の肩口を検出したもので、深さは0.15mである。出土した弥生土器は壺、甕、水差形土器、台付鉢で、弥生時代中期後半(第Ⅲ様式後半から第Ⅳ様式)に比定されている。

調査9は、室町通四条下る鶏鉾町で、平成3年(1991)に実施された。調査では弥生時代の溝、土坑、柱穴などが検出された。溝は南北方向で、幅2.1m、深さ1mのもの、幅2.2m、深さ0.8mのものがあり、いずれもV字形の断面を持つ。流路は幅5m、深さ1mで南北方向に検出された。出土遺物は溝や流路から弥生時代後期(第Ⅴ様式)の壺、甕、鉢、水差、器台、高杯が多量に出土した。流路の下層からは弥生時代中期(第Ⅱ様式)の壺が出土している。特に、調査区西端で検出した南北溝を集落の西を限る壕と推定されている。

調査10は、仏光寺通東洞院東入旧豊園小学校(現洛央小学校)で、平成4年(1992)に実施された。調査では北東から南西に延びる幅1.2m、深さ0.3mの溝が検出され、弥生時代末から古墳時代初めの高杯などが出土した。他に褐色砂礫層から弥生時代後期(第Ⅴ様式)の壺なども検出している。

調査11は、室町通四条下る鶏鉾町491の池坊学園で、平成7年(1995)に実施された。調査では北西方向から東方向に流下する流路が検出された。幅4.5m、深さ0.9mの規模で、壺、甕、台付鉢、蓋、高杯、石包丁、石剣などが出土し、弥生時代中期から後期(第Ⅱ様式末から第Ⅲ様式前半、第Ⅲ様式新から第Ⅴ様式)にかけての時期とみられている。

調査12は、東洞院通四条下る元悪王子町42他で、平成17年(2005)に実施された。調査では下層の砂礫層から弥生時代後期末から古墳時代初期の壺、甕などが出土した。出土地点の標高は34.6mで、周辺で検出された烏丸綾小路遺跡遺構成立面との比較が必要とされる。

調査13は、蛸薬師通東洞院東入泉正寺町・西魚屋町で、平成18年(2006)に実施されている。調査では弥生時代の竪穴住居、流路、土坑が検出されている。竪穴住居は南北4.5m以上、深さ0.15mのもの、長軸2.2m、短軸1.9m、深さ0.5mのものが検出された。流路は幅2.5m以上、深さ1.4mを測る。竪穴住居出土の土器には弥生時代後期後半の壺、甕、鉢、高杯がある。流路からは弥生時代中期の甕、鉢が出土した。

調査 14 は、仏光寺通室町東入釘隠町で、平成 19 年（2007）に実施された。調査では弥生時代前期の遺物包含層が検出され、広口壺、甕、鉢などが出土した。

文献（図 5 周辺調査位置図に文献番号が対応する）

- 1 大矢義明他『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅰ』1974・75年度 京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1980年
- 2 大矢義明他『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅱ』1976年度 京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1980年
- 3 上村和直「平安京 左京四条三坊跡」『平安京跡発掘調査概要』文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要 京都市文化観光局 1980年
- 4 未報告「成徳中学校体育館建設に伴う発掘調査」昭和55年（1980）調査
- 5 平尾政幸・中村 敦「左京五条三坊1」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1983年
- 6 前田義明「左京五条三坊2」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1983年
- 7 平田 泰・吉川義彦「左京四条三坊」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1984年
- 8 山田邦和 若林邦彦ほか「平安京左京五条二坊十六町」—京都市下京区傘鉾町— 京都文化博物館調査研究報告 第6集 京都府京都博物館 1991年
- 9 百瀬正恒・辻 裕司・南 孝雄「平安京左京五条三坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 10 長戸満男・山本雅和・近藤知子・鈴木廣司「平安京左京五条四坊」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 11 辻村純代・千喜良淳・前川佳代「平安京左京五条三坊八町」『平安京跡研究調査報告第19輯』（財）古代学協会 1997年
- 12 家崎孝治・上村憲章「平安京左京五条四坊一町」—四条高倉マンション新築に伴う調査— 古代文化調査会 2006年
- 13 伊藤 潔『平安京左京四条四坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-28 （財）京都市埋蔵文化財研究所 2007年
- 14 伊藤 潔『平安京左京五条三坊十一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-7 （財）京都市埋蔵文化財研究所 2008年

2. 遺 構

(1) 基本層序

調査区は体育館西横の倉庫跡地で、倉庫は比較的簡便な建物とみられ、建物基礎は浅く攪乱は小規模であった。この倉庫の解体と更地化による整地層（盛土層）が平均して地表下0.7 m前後までみられ、下端部に近代層約0.2 mが堆積する。下端部の近代層は調査区西側では認められない。北側では桃山時代から江戸時代（近世）の遺構と整地土層が地表下1.7 m前後までみられるが、南側では地表下2.0 mを超える遺構が多く検出される。この近世の遺構下に0.2～0.3 mのオリーブ褐色ないしは灰黄褐色の砂泥層がみられ、平安時代後期から室町時代の遺構の成立面になっている。この層は流路218や旧流路の最上層に堆積したもので、流路が古墳時代初めまでに埋没した後、湿地状態化して経年、長期間にわたって徐々に堆積したものとみられる。湿地状態は平安時代中期まで継続しており、この時期までの遺物が包含されている。弥生時代末から古墳時代初めの流路218と旧流路は、この土層の排土後に検出される。流路のベースになっている土層は、

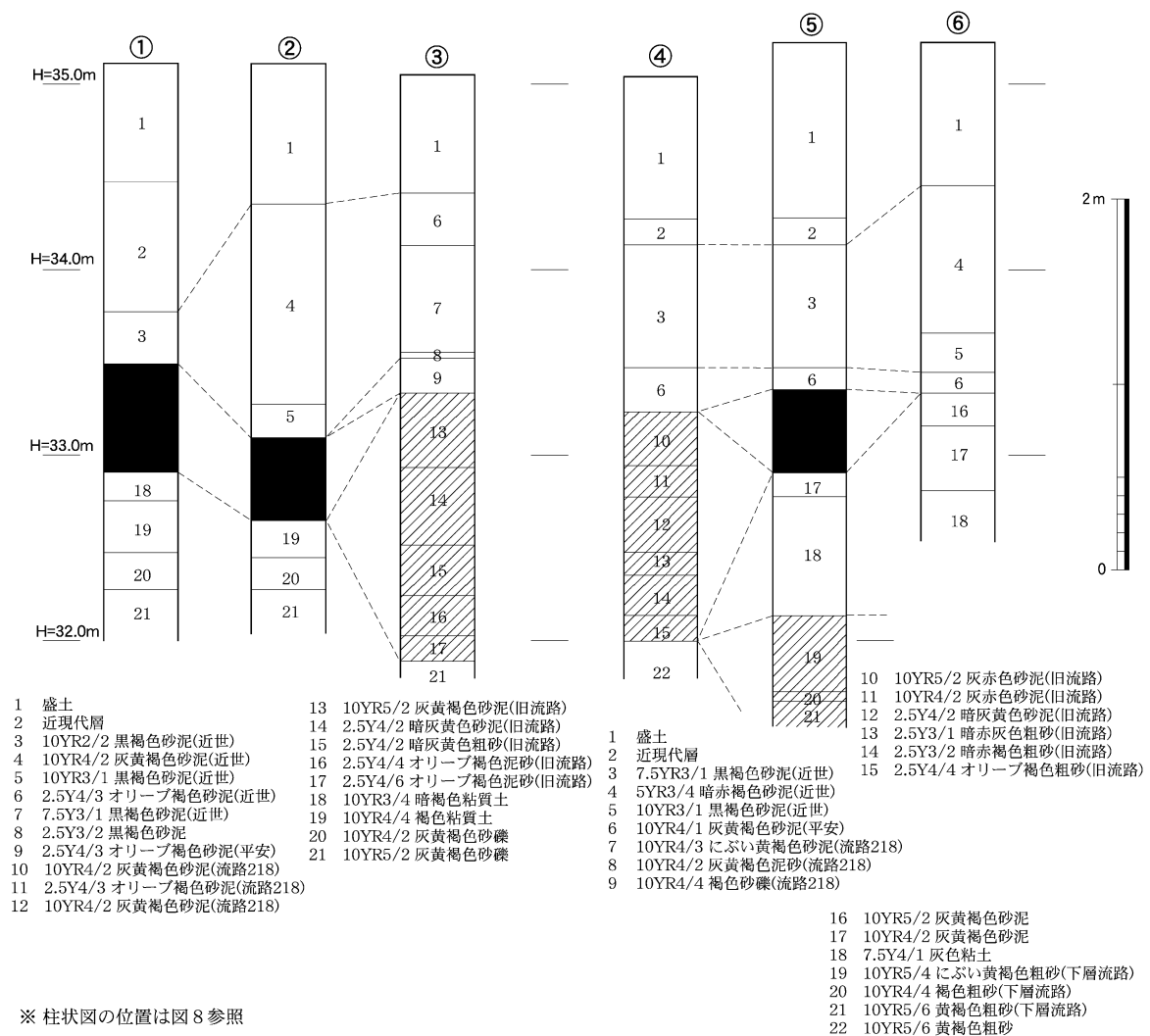


図7 基本層序図 (1 : 40)

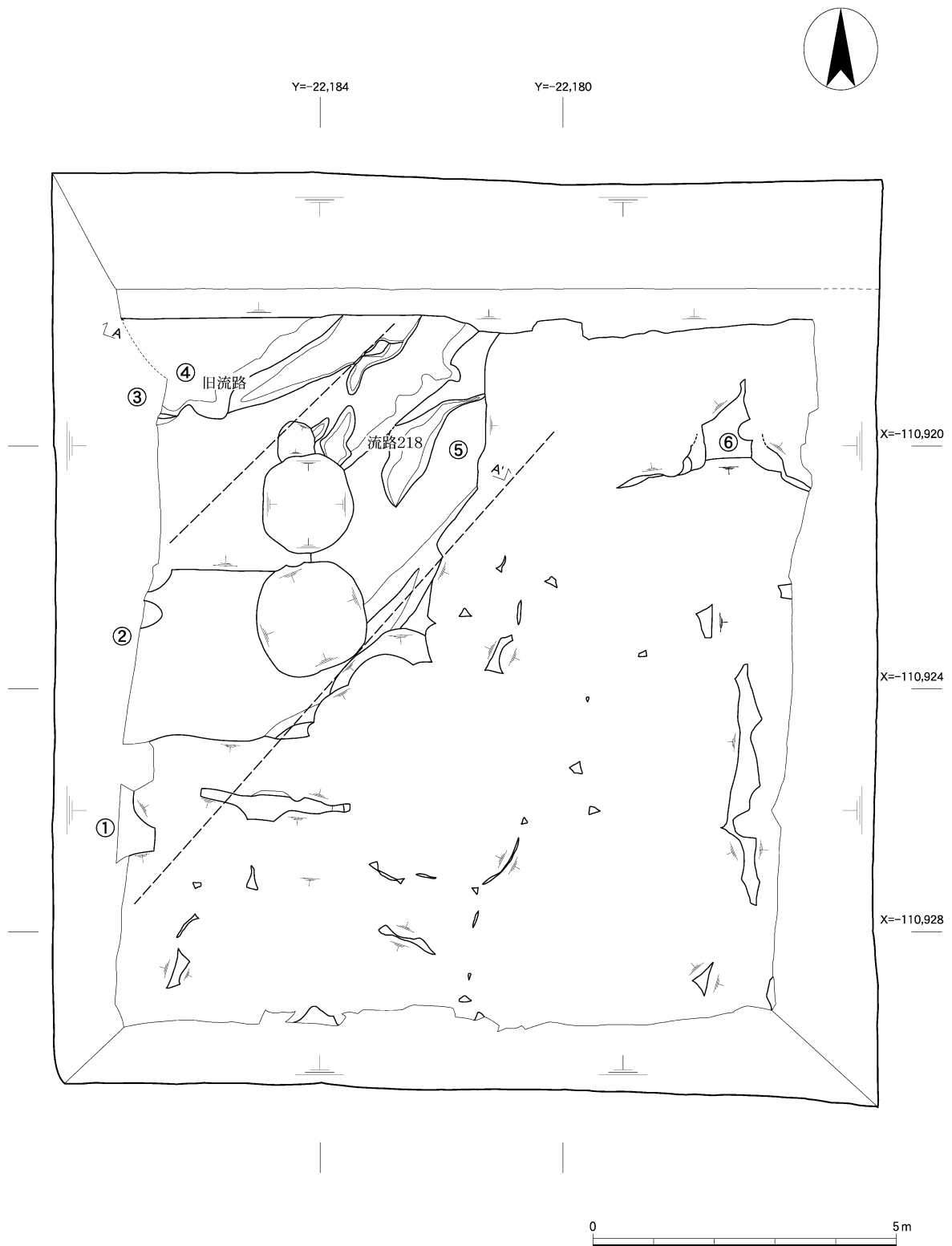


図8 弥生時代末から古墳時代初めの遺構平面図（1：100）

ほぼ水平に堆積しており、褐灰色泥砂、灰黄褐色砂泥、灰色泥砂、オリーブ黒色細砂、にぶい黄褐色粗砂と続き、堅く締まる灰黄褐色砂礫層が現われる。この砂礫層以下が最終氷河期極相期までに形成された扇状地性の堆積層とみられ、この直上からの堆積層が極相期以後の新时期扇状地性堆積層とみることができる。このことから、間層内に成立する流路痕跡（下層流路）は、温暖化が始まった縄文海進期のものと観察できる。

(2) 検出遺構

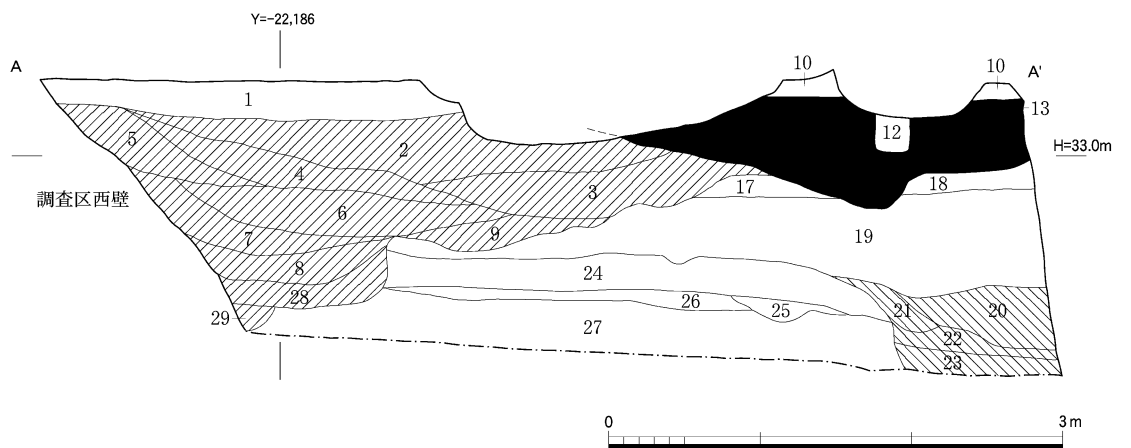
調査で検出した遺構は流路、井戸、土坑、柱穴がある。流路は第3面の弥生時代末から古墳時代初めの遺構面で検出した。井戸、土坑、柱穴は平安時代後期から室町時代の遺構面と桃山時代から江戸時代の遺構面で検出された。

弥生時代末から古墳時代初めの遺構（図8、図版2-1）

流路218（図9、図版2-2）は調査区北西部で検出したもので、北東から南西方向に流下する。幅は約3.0m、深さ0.8mを測る。堆積は上層に灰黄褐色の泥砂層、下層に褐色の砂礫層が堆積する。土器は主として下層の砂礫層から出土した。

旧流路は流路218の西に検出されたもので、幅5.0m以上、深さ1.4mを測る。遺物は出土していない。流路方向が一致すること、流路218の西側で、西肩に切られることなどから流路218の前身流路とみることができる。成立層位や堆積土から観察して流路218の時期を大きく遡るものとはみられない。

平安時代後期から室町時代の遺構（図10、図版1-2）



- | | | |
|------------------------|----------------------------|------------------------------|
| 1 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 (平安) | 11 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 (流路218) | 21 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粗砂 (下層流路) |
| 2 10YR5/2 灰赤色砂泥 (旧流路) | 12 10YR5/1 褐灰色砂泥 (室町柱穴) | 22 10YR4/4 褐色粗砂 (下層流路) |
| 3 2.5Y5/1 赤灰色泥砂 (旧流路) | 13 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 (流路218) | 23 10YR5/6 黄褐色粗砂 (下層流路) |
| 4 10YR4/2 灰赤色砂泥 (旧流路) | 14 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 (流路218) | 24 7.5Y3/1 オリーブ黒色細砂 |
| 5 2.5Y5/2 暗赤色砂泥 (旧流路) | 15 10YR4/4 褐色砂礫 (流路218) | 25 7.5Y3/1 オリーブ黒色粗砂 |
| 6 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥 (旧流路) | 16 10YR4/6 褐色砂礫 (流路218) | 26 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂 |
| 7 2.5Y3/1 暗赤灰色粗砂 (旧流路) | 17 10YR4/1 褐灰色泥砂 | 27 10YR5/2 灰黄褐色砂礫 |
| 8 2.5Y3/2 暗赤褐色粗砂 (旧流路) | 18 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 | 28 2.5Y4/4 オリーブ褐色粗砂 (旧流路) |
| 9 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂 (旧流路) | 19 7.5Y4/1 灰色泥砂 | 29 2.5Y4/6 赤褐色粗砂 (旧流路) |
| 10 10YR4/1 灰黄褐色砂泥 (平安) | 20 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂 (下層流路) | |

図9 流路218・旧流路・下層流路断面実測図（1：50）

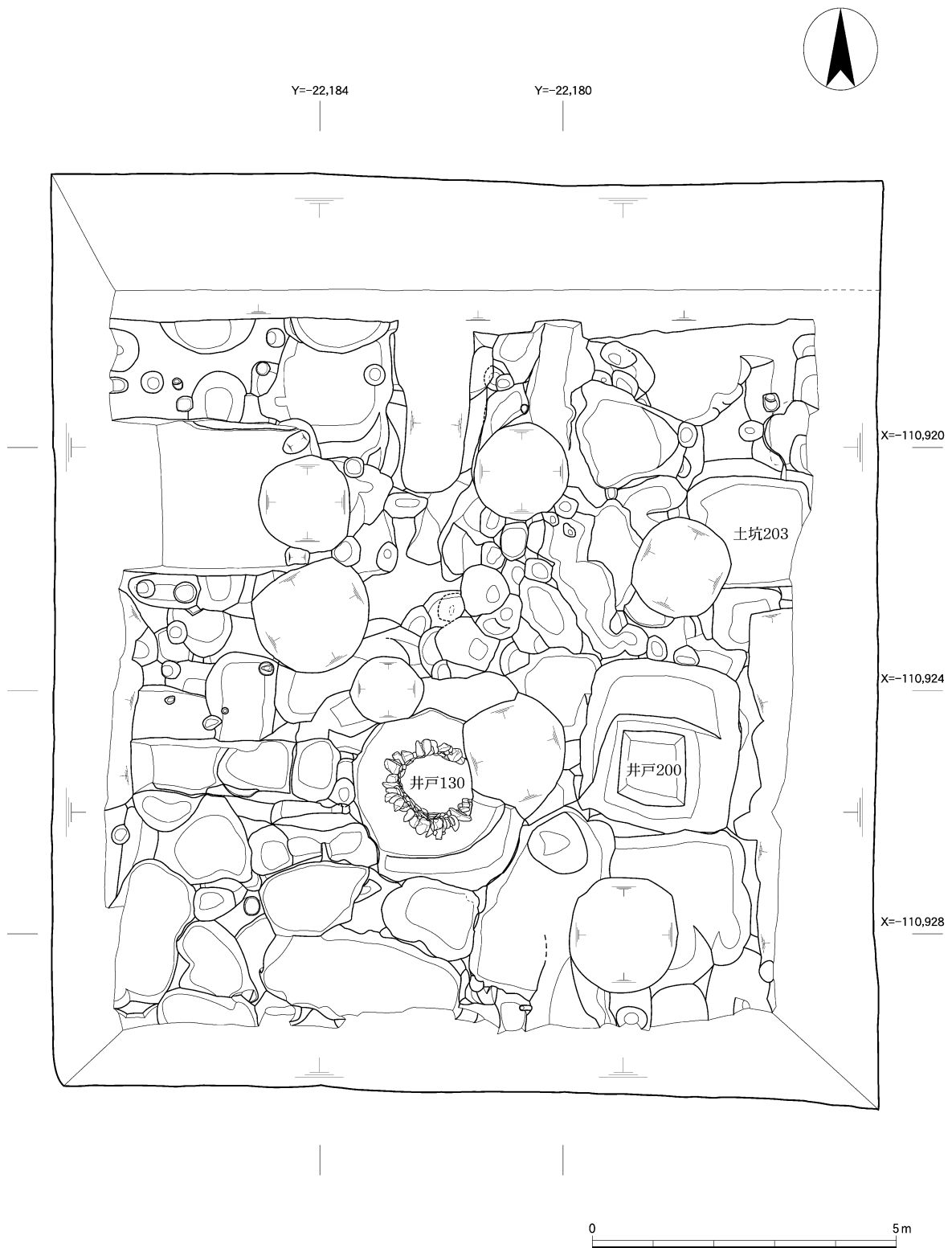


図 10 平安時代後期から室町時代の遺構平面図（1：100）

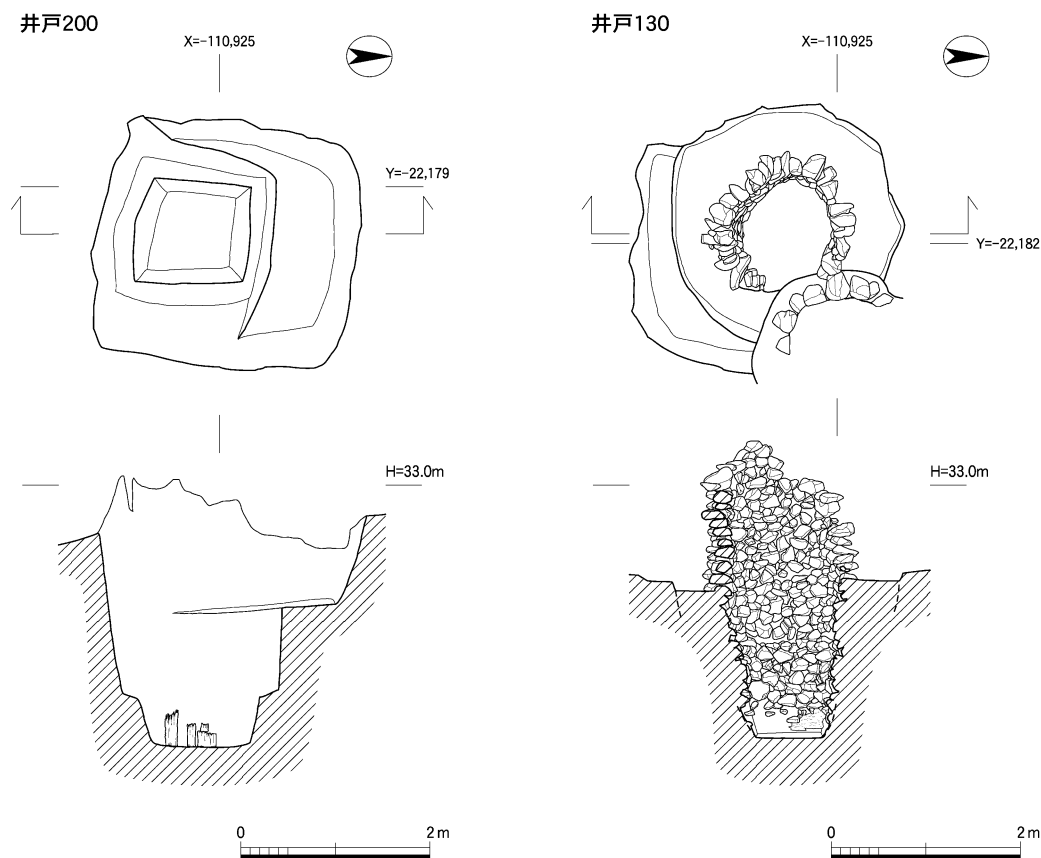


図 11 井戸 200・130 実測図 (1 : 80)

井戸 200 (図 11、図版 3-1) は方形掘形を持つ縦板組横棧止め木枠井戸で、底部に木枠の一部が遺存する。掘形一辺 2.8 m、木枠内一辺は 0.9 m と推定できる。底部には水溜の施設は認められない。検出面からの深さ 2.8 m、底面の標高は 30.2 m を測る。

井戸 130 (図 11、図版 3-2) は円形掘形、円形石組み播鉢形の井戸側を持つ。径 0.2 m 前後の自然石を積み上げ、底部水溜に曲物を埋め込んだ痕跡が認められる。石組み上部径 1.2 m、下部 0.8 m で、検出面からの深さ 3.1 m、底部の標高は 30.3 m を測る。

桃山時代から江戸時代の遺構 (図 12、図版 1-1)

井戸 15 (図 13) は掘形円形、石組み円筒形で、石組み下部がやや膨らむ袋状を呈する。径 0.2 m の自然石を積み上げ、水溜の施設は認められない。上部径 0.8 m、下部径 0.9 m で、検出面からの深さ 1.6 m、標高 32.2 m を測る。

井戸 26 (図 13) は掘形円形、石組み播鉢形井戸である。径 0.3 m 前後の自然石を積み上げ、水溜の施設は認められない。石組み上部の径 1.0 m、下部径 0.6 m で、検出面からの深さ 1.1 m、底部の標高 32.6 m を測る。

井戸 53 (図 13) は楕円形掘形、長方形の石組み播鉢形井戸で、径 0.3 ~ 0.2 m 前後の自然石を積み上げ、水溜の施設は認められない。上部長径 1.8 m、下部 1.6 m、上部短径 1.0 m、下部 0.6 m を測る。検出面からの深さ 1.1 m、底部の標高は 32.5 m を測る。

井戸 100 (図 13) は北半が攪乱を受け、南面の石組みのみが遺存する。残存部分から掘形円形、

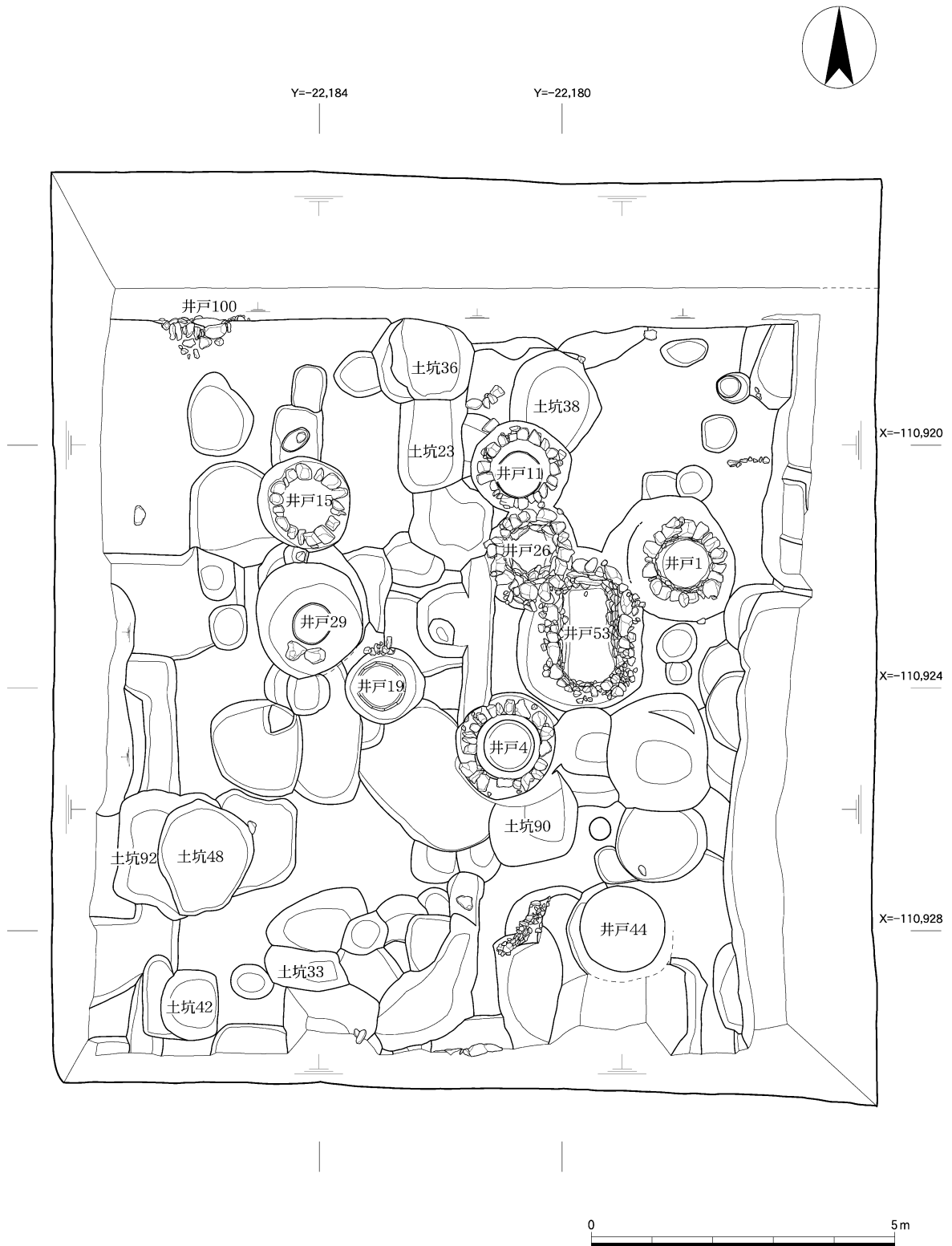
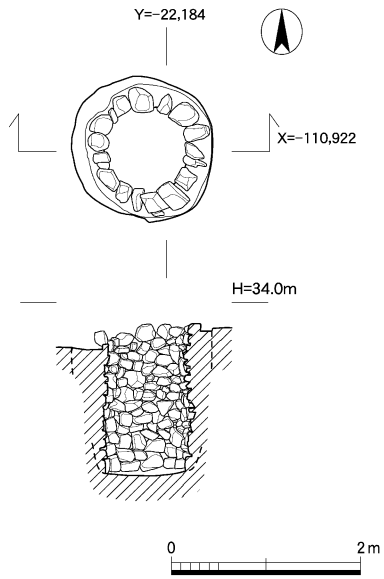
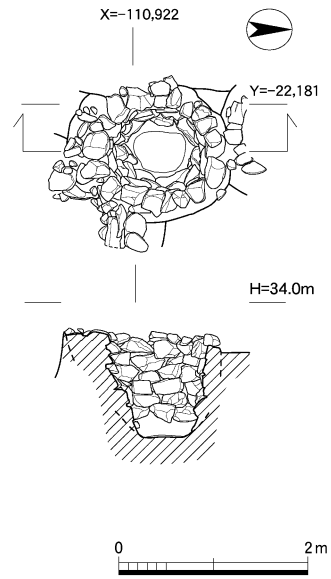


図 12 桃山時代から江戸時代の遺構平面図（1：100）

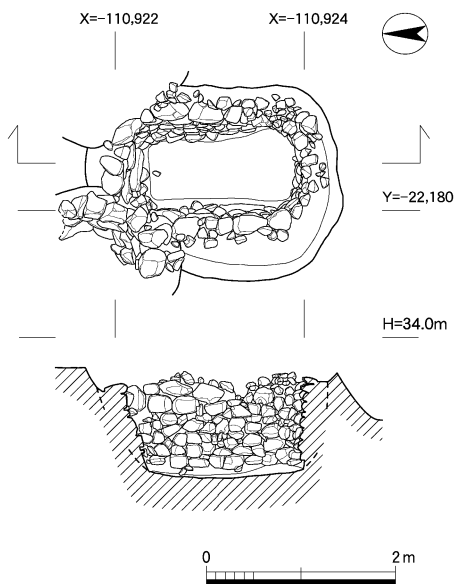
井戸15



井戸26



井戸53



井戸100

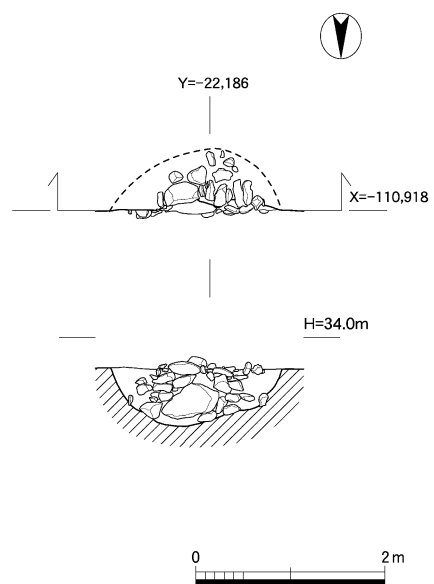


図 13 井戸 15・26・53・100 実測図 (1 : 80)

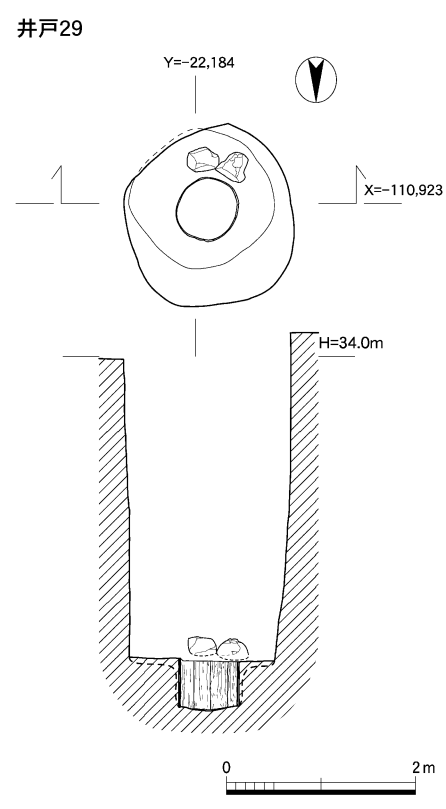
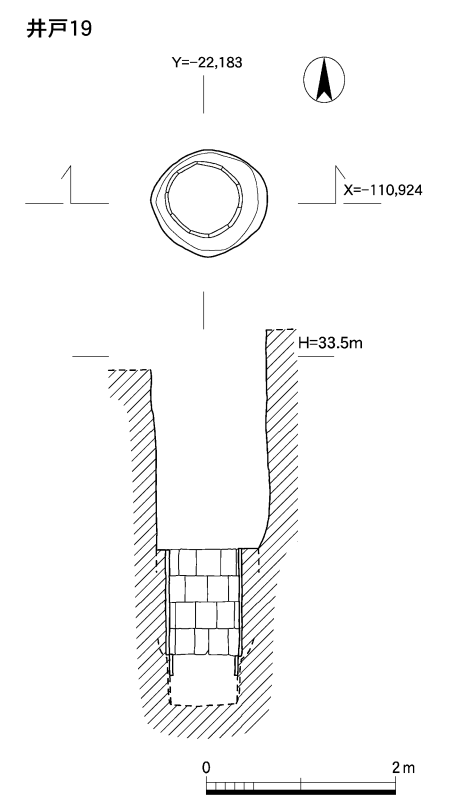
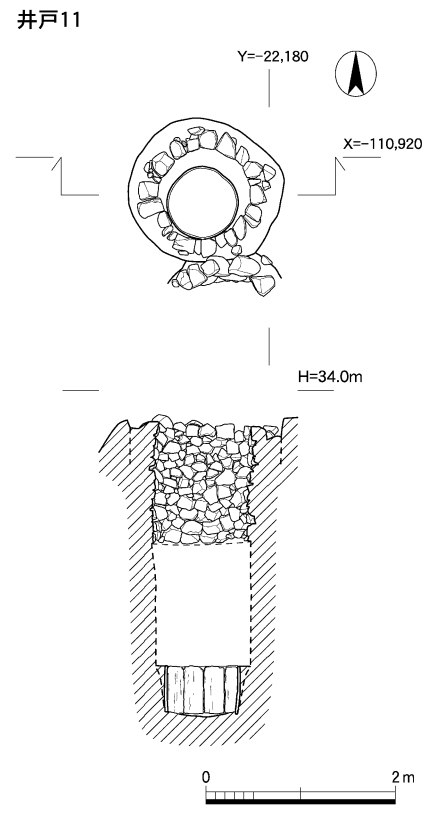
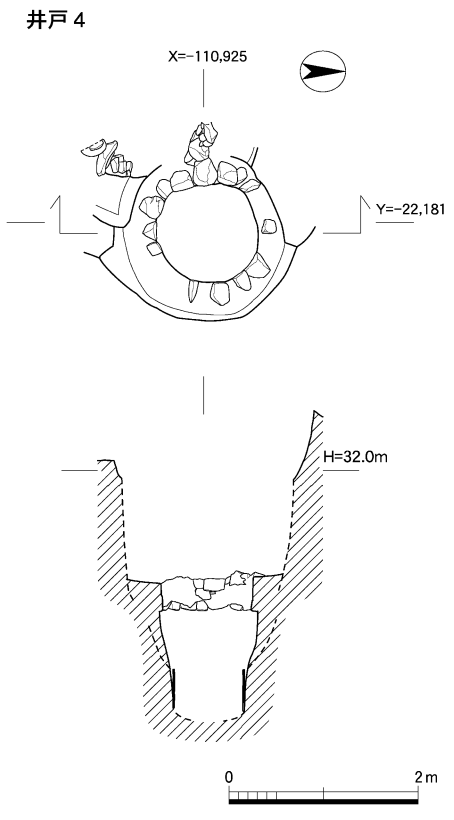


図 14 井戸 4・11・19・29 実測図 (1 : 80)

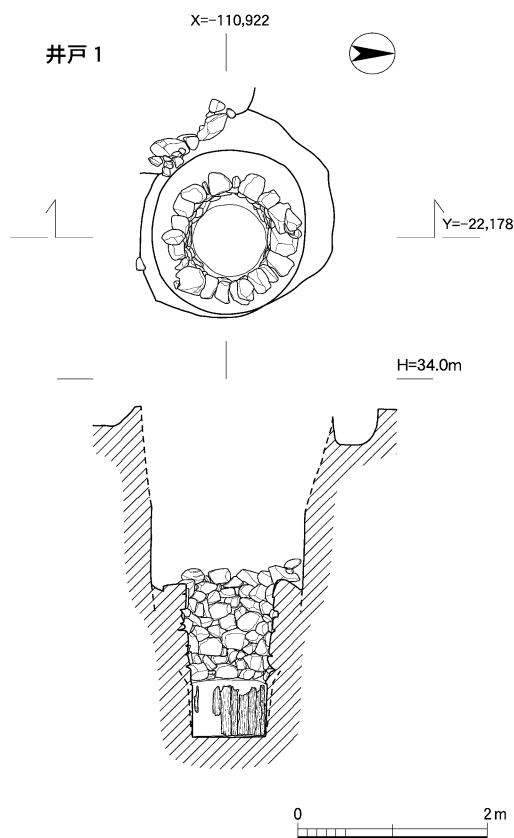


図15 井戸1実測図(1:80)

方形石組み井戸と復元できる。径0.6 mや、0.3～0.2 m前後の自然石を積み上げ、水溜の施設は認められない。検出面からの深さ0.6 m、底面の標高33.1 mを測る。

井戸4(図14)は円形掘形で、石組み円筒形、底部に桶を埋設する。小口割にした径0.2 m前後の石材を積んだ後に漆喰による目張りを施す。掘形径1.7 m、石組み内径1.0 m、桶高0.5 m、桶径0.7 m、検出面からの深さ3.4 m、底面の標高29.4 mを測る。

井戸11(図14)は掘形円形で、石組み円筒形、底部に桶を据えて水溜にする。小口割にした径0.2 m前後の石材を積み上げる。掘形径1.6 m、石組み内径1.0 m、桶高0.5 m、桶径0.8 mを測る。検出面からの深さ3.2 m、底面の標高30.6 mを測る。

井戸19(図14)は円形掘形、円形塙組の井戸で、水溜に桶を埋設する。掘形径1.2 m、塙内径0.8 m、

桶径0.7 m、桶高推定0.5 m、検出面からの深さ4.0 m、底面の標高は推定29.3 mを測る。

井戸29(図14)は掘形円形、円形石組み井戸で、水溜に桶を据える。石組みは最下段の2石が遺存する。掘形径1.8 m、桶高0.5 m、桶径0.6 m、検出面からの深さ4.0 m、底面の標高30.3 mを測る。

井戸1(図15)は円形掘形、石組み円筒形で、水溜に桶を据え、径0.2 m前後の割り石を積み上げる。掘形径2.0 m、石組み内径0.5 mを測る。桶径0.4 m、桶高0.6 m、検出面からの深さ3.5 m、底面の標高30.1 mを測る。

表1 遺構概要表

時代	遺構	備考
弥生時代末 ～古墳時代初め	流路218	
平安時代後期 ～室町時代	井戸200・130、土坑203、土坑、柱穴	
桃山時代 ～江戸時代	井戸1・15・26・53・100・4・11・19・29、土坑、柱穴	

3. 遺物

(1) 遺物の概要

調査で出土した遺物は、弥生土器、土師器皿、須恵器杯、灰釉陶器杯、緑釉陶器碗、輸入陶磁器盤・碗・皿、須恵質陶器鉢、焼締陶器壺・甕、瓦器碗・皿、瓦質土器鉢、土師質土器鉢、陶器碗・皿、施釉陶器碗・皿・鉢、染付磁器碗・皿、瓦埴類、土製品（ミニチュア土器・泥面子）、漆器皿、金属製品（銅線ほか）、銭貨（寛永通寶）などがある。

弥生土器は弥生時代末から古墳時代初めのもので、流路 218 と上層遺構へ混入して出土したものがあ。須恵器杯、灰釉陶器杯、緑釉陶器碗、輸入陶磁器盤（越州窯系青磁）は、流路 218 上面に堆積した平安時代中期までの土層からと上層へ混入したものが出土しているが、量は少ない。土師器皿は平安時代後期、室町時代、桃山時代から江戸時代のものがある。焼締陶器、瓦器、瓦質土器、土師質土器、陶器などは室町時代の井戸、土坑、柱穴から出土し、施釉陶器、染付磁器、瓦埴類、土製品、漆器、金属製品、銭貨などは桃山時代から江戸時代の井戸、土坑、柱穴などから出土した。

(2) 出土土器

弥生時代末から古墳時代初めの遺物（図 16～18、図版 4・5）

流路 218 から出土したものと流路の上面遺構に混入して出土したものがあ。各土器の出土遺構は掲載遺物一覧表（表 3）に明記した。

1～15 は壺で、1～6 が広口壺、7・8 が短頸壺、9・14・15 が二重口縁壺、10 が直口壺、11～13 は壺口縁部の小破片である。いわゆる庄内式期に属したもので、その古相期段階とみることができよう。1～6 の広口壺はいずれも頸部から口縁部にかけて外反する。端部は丸くおさめるもの、軽く上方に摘み上げて収めるものがある。口縁部の内外をハケメ調整するものが多い。7・8 は短頸壺とみられるもので、いずれも体部を欠く。頸部から口縁部は外傾して緩く外湾し、端部を緩く上方に摘み上げる。7 は頸部に刺突文で加飾する。9・14・15 は二重口縁壺で、9 は肩部が内方斜め上方に直線的に延び、頸部は上開きの筒形を呈する。口縁は肥厚気味に斜め外方に延びて端部は丸く収める。肩部と頸部の境と頸部と口縁の境に断面三角の突帯を貼り付ける。上部の突帯に刺突文で加飾する。14 は口縁部のみ的小片で、頸部は肥厚しつつ大きく外反、その上に斜め上方に延びる口縁が付き、端部は外反する。15 は大型とみられるもので、口縁部のみが遺存した。頸部上端に小さな突帯が廻り、緩く外反する口縁部が斜め上方に延びて、端部は面を造る。

16 は細頸壺とみられるが、口縁部を欠く。体部は扁球形で最大径が下位にある。17 は小型壺に分類しているが、小形の鉢の可能性があ。口縁端部と底部を欠く。器壁は薄く仕上げ、体部外面にミガキとみられる調整痕が認められる。18 は頸部下端に突帯を貼り、刺突文で飾り、肩部に 2 条の櫛描波状文と 1 条の櫛描直線文を施す。口縁部と体部以下を欠く。加飾されており、二

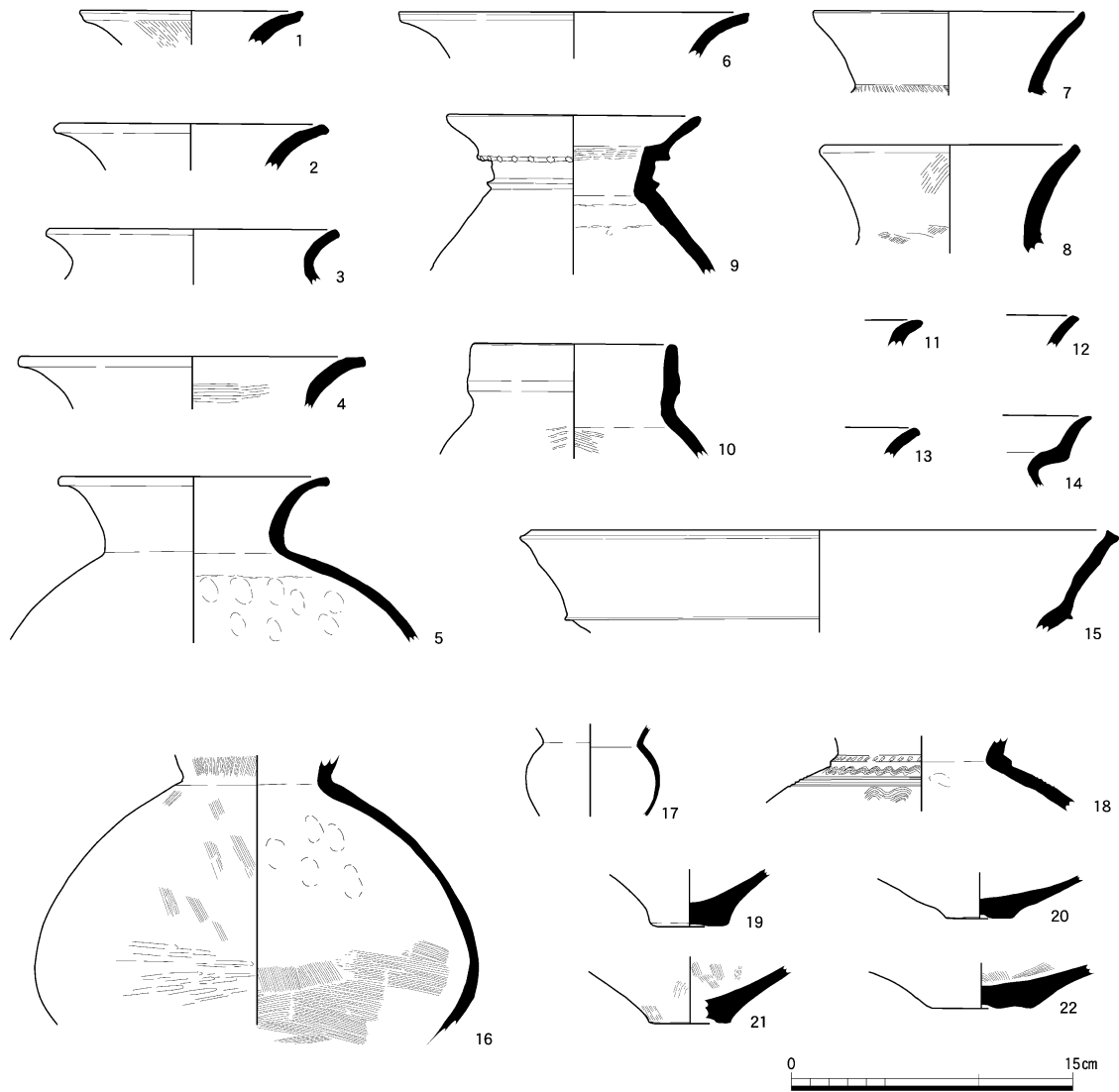


図 16 弥生時代末から古墳時代初めの遺物実測図 1 (1 : 4)

重口縁壺の可能性が高い。19～22 は底部で、底部外面がわずかに窪み、高台風に造る。

23～30 は甕の肩部から口縁部が遺存したもので、23 は口縁部下半は斜め上方に延び、上半がわずかに内湾して受口状を呈する。内面を頸部までケズリ。24 は肩部から折り曲げて口縁部を造り、内湾気味に延びて端部は軽く上方に摘み上げる。25 は口縁部上半を内方に折り曲げて受口状口縁を造る。26～27 は内面を頸部下端までケズリ、口縁部は斜め上方に直線的に延びて端部を上方に摘み上げる。29 は器壁は厚く寸胴で、口縁部は短く斜め上方に立ち上がり、端部は面を造る。内外の調整はハケメによる。30 は頸部から口縁部を折り曲げて成形し、端部は斜め上方で面を造る。内面頸部のやや下位からケズリを施す。

31～42 は甕の体部および底部とみられるものである。31 は楕円形の体部で、最大径が中位にある。高台風に中央が窪む底部が付く。内外を丁寧なハケメで仕上げる。32～34・36 は外面底部近くまでタタキによる成形を施し、底部の角を潰して丸底化を志向する。35・37・38 は底部平底の角が明瞭に残る。40・41 は脚台付き甕としたが、台付き鉢の可能性もある。42 は脚台付

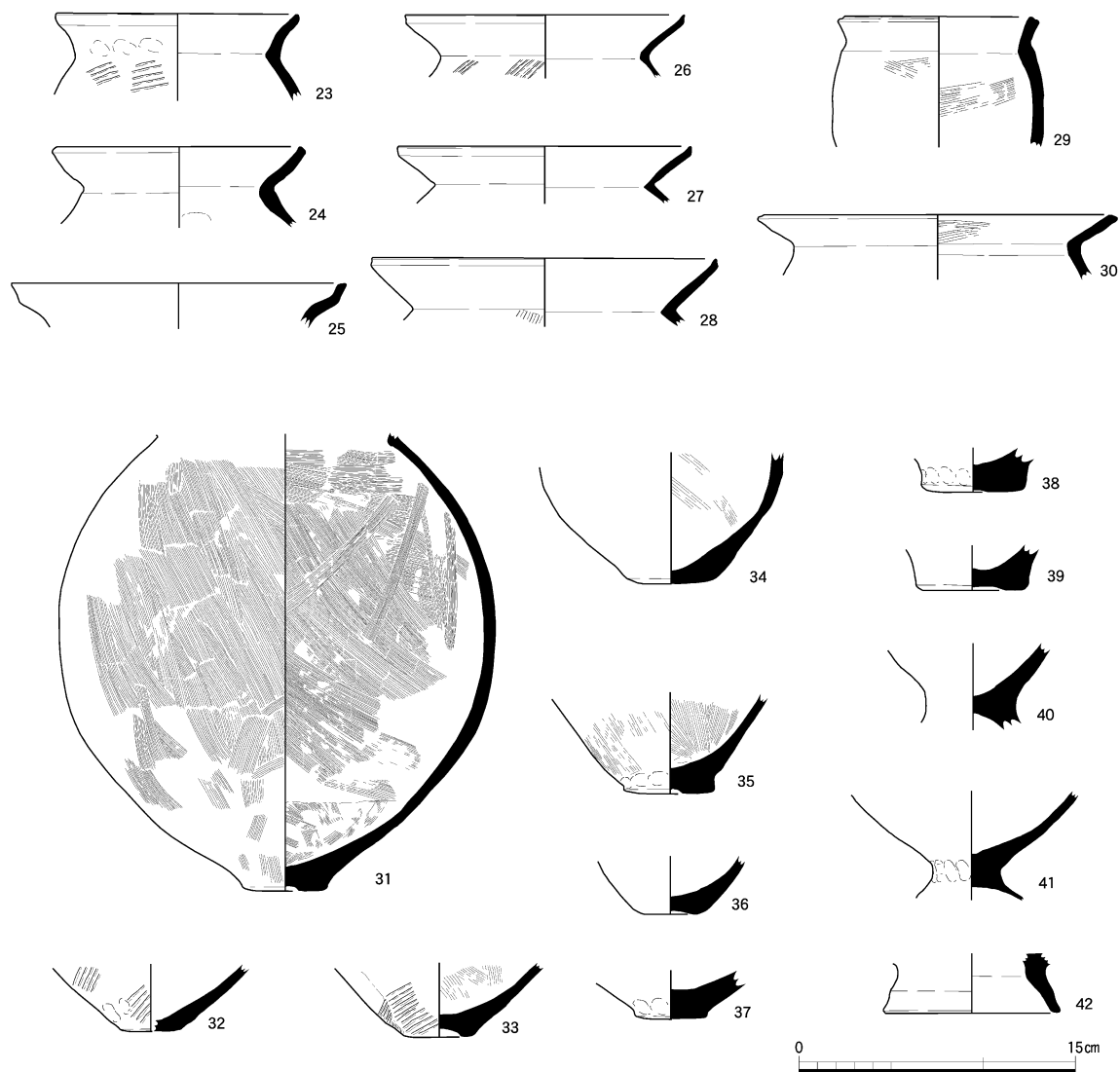


図17 弥生時代末から古墳時代初めの遺物実測図2 (1:4)

き甕の脚台部分が遺存したものとみられよう。脚台付き甕は尾張地方に多くみられるもので、この時期に近江、山城、大和への搬入が目立つ。

43～50は高杯とみられるものである。43・44は椀状の杯部が遺存したものである。45・47・48は柱部中実の筒部を持つ。49・50は柱部中空の筒部で、46は不明である。いずれも円形の透孔を有する。ただし、45・46は器台の脚部の可能性がある。

51～58は器台である。51は受部を直線的に斜め上方に延ばす。52は内湾気味に緩く延び、端部を小さく上下に拡張する。53は受部端部を下方に拡張して面を造るもので、文様は不明である。54～58は筒部から裾部が遺存したもので、ハの字状に裾部を広げる。円形の透孔を穿つものもないものがある。

59は蓋とみられる。裾部外面を縦方向にミガクなど精製品である。弥生時代中期に属した可能性がある。

60は鉢として分類したもので、内湾気味に立ち上がった体部に如意形に曲がる口縁部が付く。

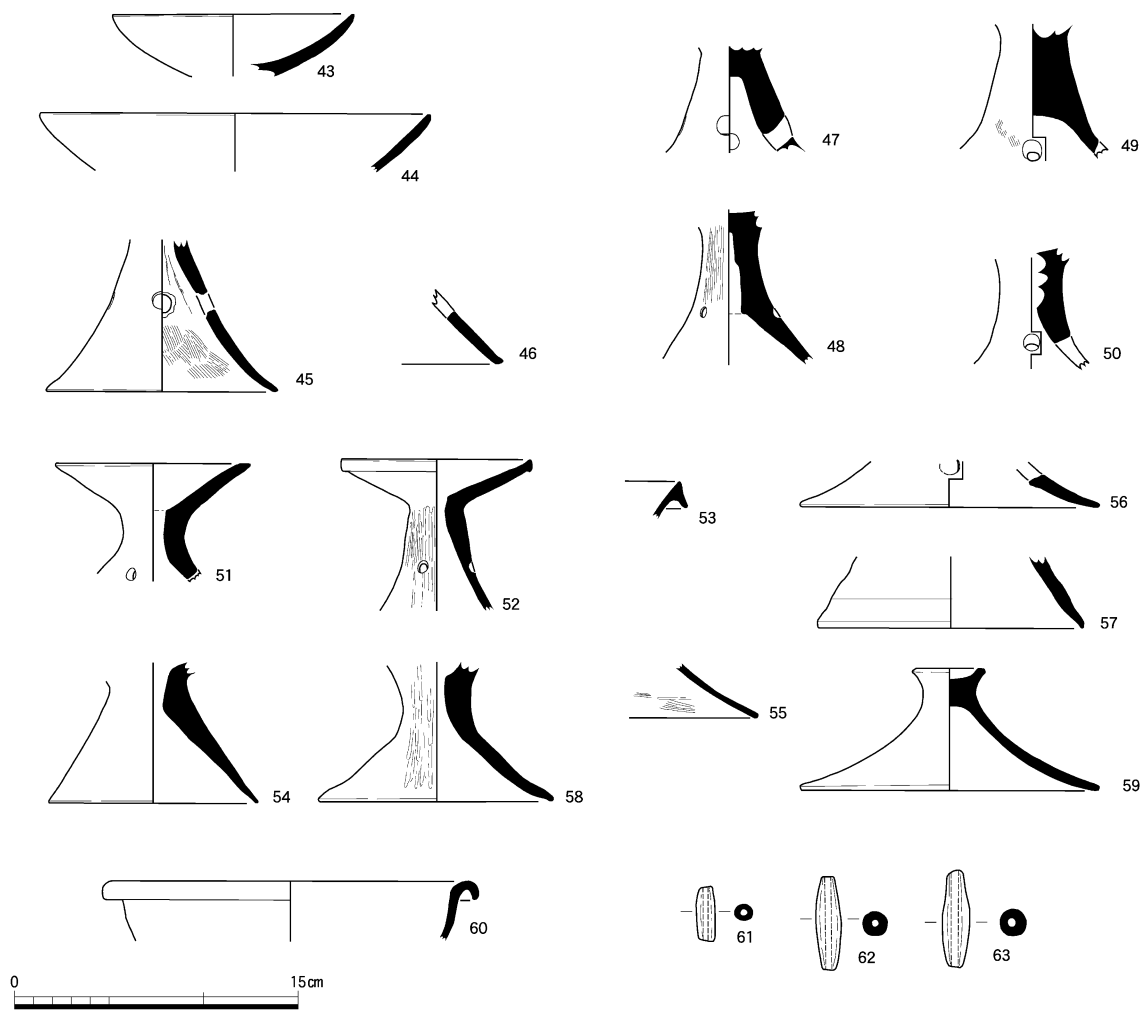


図 18 弥生時代末から古墳時代初めの遺物実測図 3 (1 : 4)

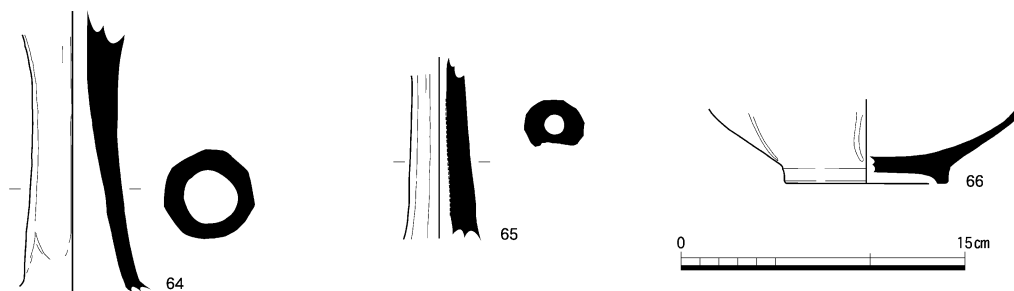


図 19 平安時代前期から中期の遺物実測図 (1 : 4)

底部は不明である。弥生時代中期に属した可能性がある。

61～63は土錘で、61は小型、62・63はやや大型のものである。

平安時代前期から中期の遺物 (図 19)

64・65は土師器高杯、66は輸入陶磁器の青磁鉢である。64は筒部が遺存したもので、やや大型である。外面をヘラケズリし、削り幅は広い。9世紀代の早い時期のものと見られる。65は外面をヘラケズリするが、削り幅が狭く、10世紀代のものとみられる。66は越州窯系青磁鉢とみ

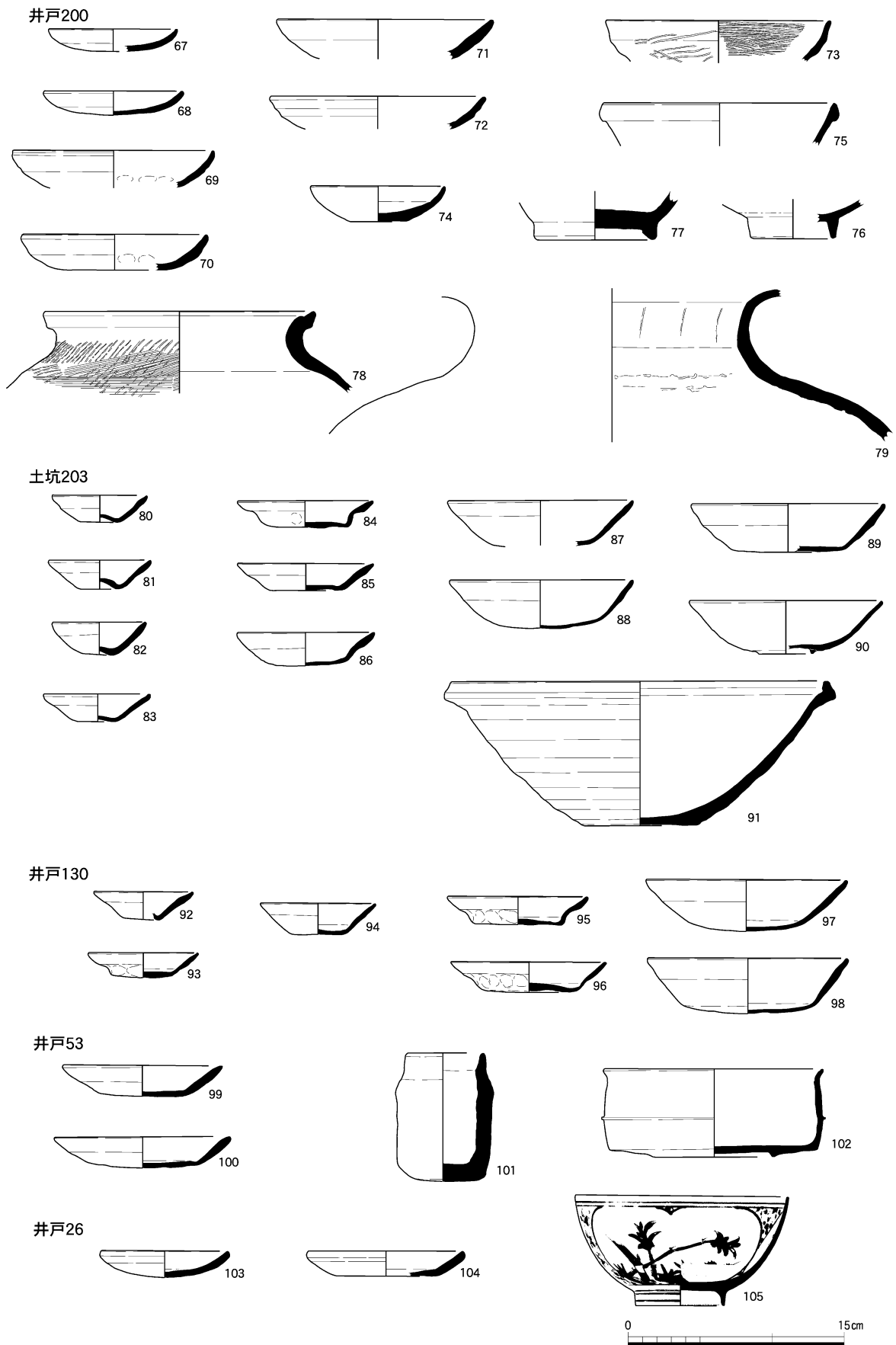


図20 平安時代後期から江戸時代の遺物実測図（1：4）

られるもので、輪花を持つ。全面に緑灰色の釉がかかり、見込みと高台疊付けに貝目跡が残る。

平安時代後期から室町時代の遺物（図 20）

67～79 は井戸 200 から出土したもので、67～72 が土師器皿、73 が瓦器椀、74 が青磁皿、75～77 が白磁椀・壺、78・79 が須恵器甕である。69～72 の土師器皿口縁端部は外反から摘み上げに変化しつつある。74 は青磁小皿。75 は玉縁を有する白磁椀で、76・77 が白磁底部である。77 は器壁厚く大型で、壺などの底部とみられる。須恵器甕 78 は頸部が短く小型であるが、79 は大型で頸部はやや長い。口縁端部の上下の拡張は顕著ではない。平安時代後期、12 世紀前半の遺物とみることができる。

80～91 は土坑 203 から出土したもので、80～89 が土師器皿、90 が須恵質陶器椀、91 が須恵質陶器鉢である。90 はロクロ造りで須恵質に焼き上げられ、小さい断面三角の貼り付け高台が付く。室町時代前期（南北朝期）のものとみられる。

92～98 は井戸 130 から出土したもので、いずれも土師器皿である。92～94 は小型の皿で、95・96 が中型、97・98 が大型でやや深く、杯か椀に近い器形である。室町時代前期（南北朝期）に属している。

江戸時代の遺物（図 20～23）

99～102 は井戸 53 から出土したもので、99・100 が土師器皿、101 が土師質土器塩壺、102 が施釉陶器鉢である。施釉陶器鉢 102 は黄瀬戸と呼ばれるもので、見込みに草花文を描く。江戸時代前期に属する。

103～105 は井戸 26 から出土したもので、103・104 が土師器皿、105 が染付磁器椀で肥前系とみられる。江戸時代中期に属したものである。

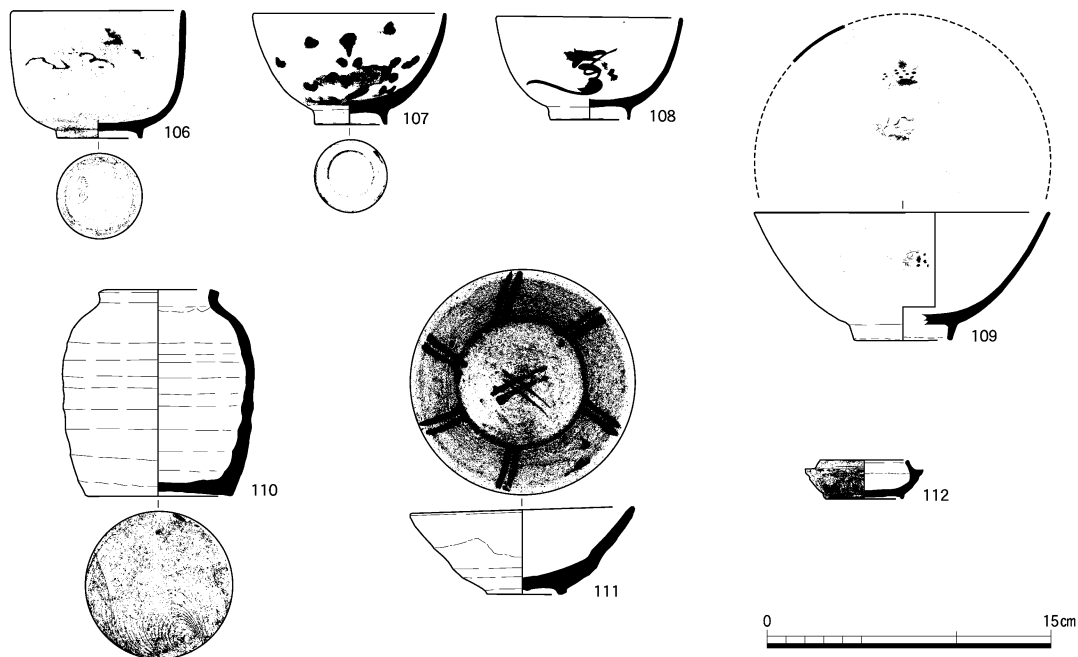


図 21 江戸時代前期の遺物実測図（1：4）

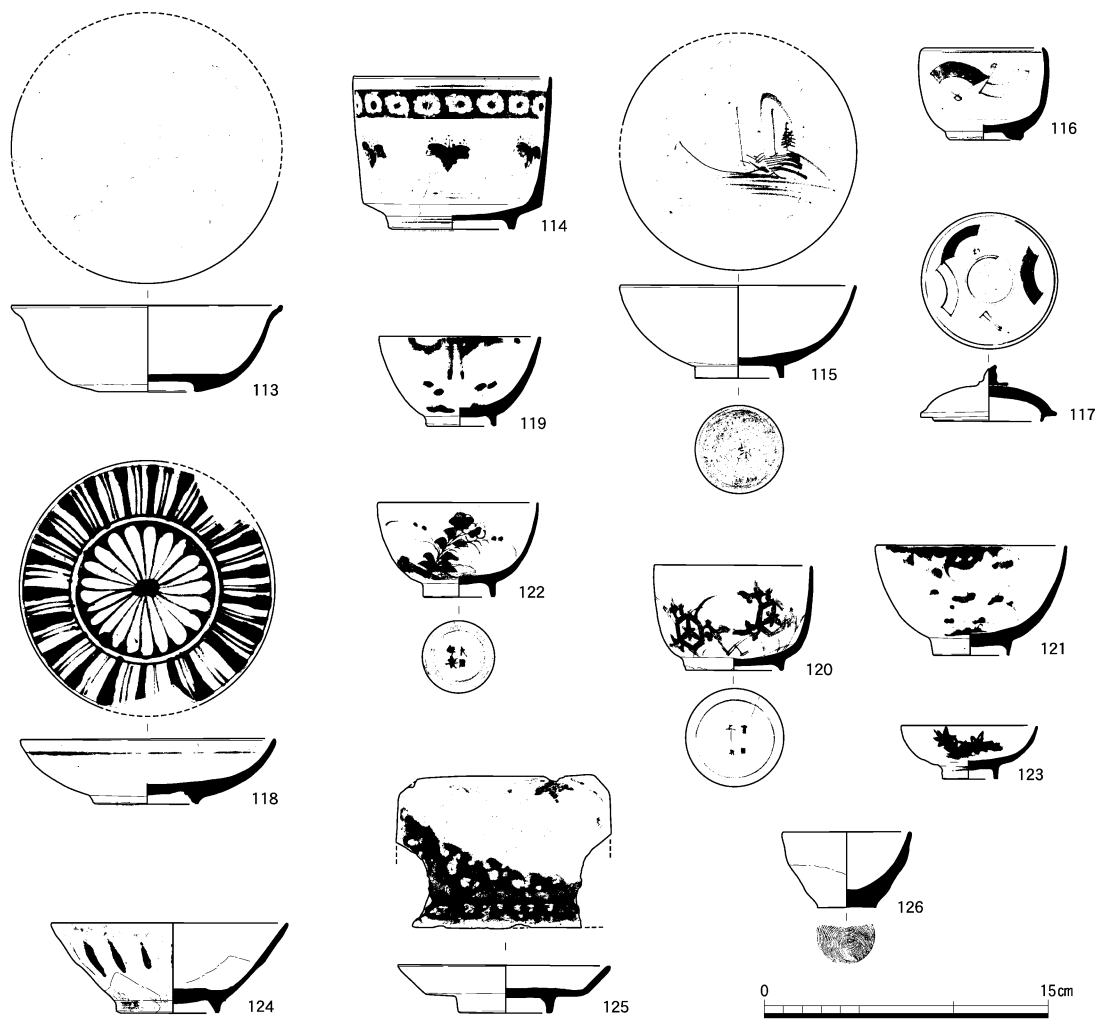


図 22 江戸時代中期の遺物実測図（1：4）

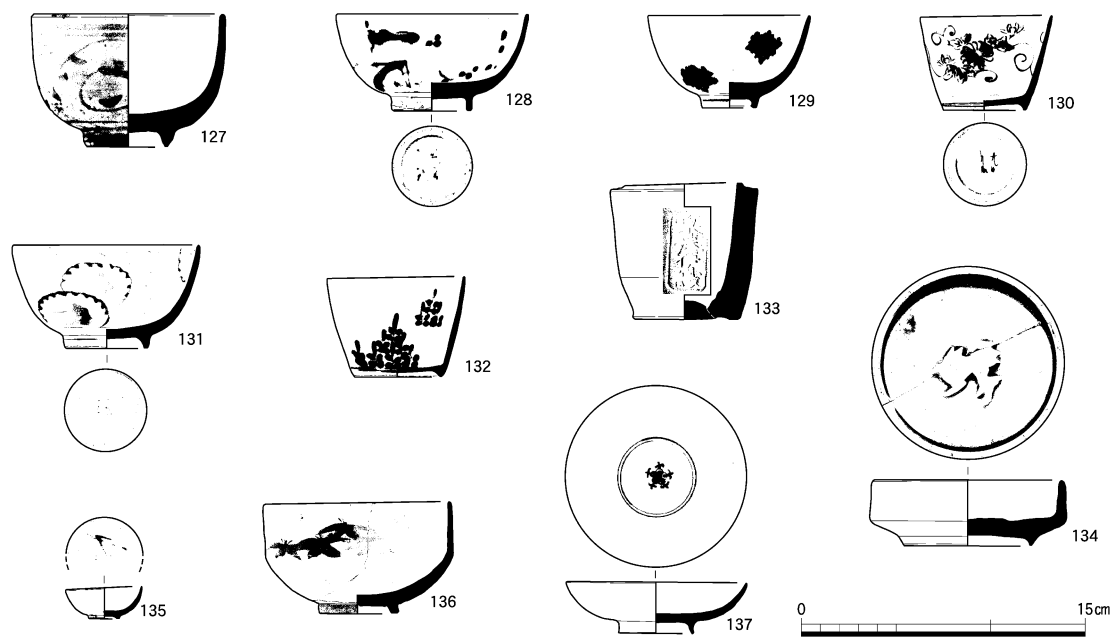


図 23 江戸時代後期の遺物実測図（1：4）

106～112は江戸時代前期に属したもので、106が施釉陶器椀、107・108が染付磁器椀、109が色絵磁器椀、110が施釉陶器壺、111が施釉陶器鉢、112が施釉陶器香合の身である。106～110が土坑48、111が土坑88、112が土坑90から出土した。

113～126は江戸時代中期に属したもので、113が白磁鉢、114が染付磁器鉢、115が施釉陶器椀、116が染付磁器椀、117が染付磁器蓋、118・123が染付磁器皿、119～122・124が染付磁器椀、125が施釉陶器角皿、126が施釉陶器小椀である。113が土坑33、114が土坑38、115～123が土坑42、124が井戸29、125が土坑92、126が土坑10から出土した。

127～137は江戸時代後期に属したもので、127～129・131が染付磁器椀、130・132が染付磁器そば猪口、133が土師質土器塩壺、134青磁皿、135が染付磁器小椀、136が施釉陶器椀、137が染付磁器皿である。127～130が土坑23、131・132・136・137が土坑36、133～135が土坑37から出土した。

表2 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
弥生時代末～古墳時代初め	土器、土錘		土器60点、土錘3点		
平安時代前期～中期	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、輸入陶磁器		土師器2点、青磁1点		
平安時代後期～室町時代	土師器、須恵器、須恵質陶器、白磁、瓦器、焼締陶器		土師器23点、須恵器2点、須恵質陶器2点、瓦器1点、青磁1点、白磁3点		
桃山時代～江戸時代	土師器、土師質土器、施釉陶器、染付磁器、瓦埴類、土製品、漆器、金属製品、銭貨		土師器4点、土師質土器2点、施釉陶器9点、染付磁器21点、色絵磁器1点、青磁1点、白磁1点		
合計		151箱	137点（3箱）	13箱	135箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より16箱多くなっている。

4. ま と め

弥生時代末から古墳時代前期の流路 218 は、東西幅約 3.0 m、深さ約 0.8 m、N 40° E の振れを持って北東から南西方向に流下する。出土土器には高杯、甕、壺があり、数量的には高杯が多く、流路の東側に集中する。流路東岸方向からの投棄が想定される。流路 218 の西側下層には砂層の厚い堆積土層が確認され、幅 5.0 m 以上、深さ 1.2 m の規模を有した下層流路の存在がうかがえ、流路 218 の前身流路とみることができる。また、これらの流路のベースとなっている粘土層は水平堆積であり、この粘土層下から切り込み、砂礫層をベースにした粗砂層の堆積も古期の流路痕跡であり、粘土層のさらに下層であることから最終氷期極相期以後の早い時期の流路跡の可能性を指摘できる。

調査で検出した井戸は、平安時代後期 1 基、室町時代 1 基、桃山時代から江戸時代 11 基で、総計 13 基を数えるが、この井戸集中の原因は上記の長期にわたる流路の存在に深く関わっていると見えよう。また、流路 218 の上面には灰黄褐色、オリーブ褐色の緻密な砂泥層が堆積するが、層中に平安時代中期までの遺物を包含している。このことから流路 218 は古墳時代初期に大部は埋没するが、流路とその周辺は平安時代中期頃まで湿地状態で経年したものと考えることができる。

流路 218 とこの上層遺構に混入して出土した土器は、時期的なまとまりが認められ、この時期の良好な資料といえよう。流路からの出土や高杯の資料が数量的に多いことは、単なる廃棄行為の結果に留まらず、水辺での祭祀行為の結果の可能性も一考すべきかもしれない。

平安時代前期の遺物は、流路 218 最上層の湿地状堆積層や上層遺構への混入で出土したもので、越州窯系青磁鉢が出土した。

五町地の北西部は、弥生時代末から古墳時代初頭にかけて北東から南西方向へ流下する流路があり、その西に旧流路が存在した。旧流路からの出土遺物は確認していない。流路の埋没は早く、古墳時代初頭には埋没し、以後長期間にわたって湿地状態で経年する。平安時代に入って湿地状態は解消に向かうが、確実に居住環境が整うのは中期以降とみられる。平安時代後期には井戸が造られ、鎌倉時代、室町時代にも土坑、井戸、柱穴などが確認できる。桃山時代から江戸時代にも土坑、井戸、柱穴があり、特に井戸は頻繁な造り替えが窺え、同時期に複数の井戸を供用した可能性も考慮すべきだろう。

表3 掲載遺物一覧表

番号	器種	器形	口径 (cm)	器高 (cm)	調整	胎土	色調	焼成	遺構名	時代	挿図	図版
1	土器	壺	11.6	1.8以上	ハケメ	長石 チャート	10YR8/1灰白	良	流路218	弥生末～古墳初	16	
2	土器	壺	13.9	2.5以上	ナデ	長石 チャート	10YR8/1灰白	良	流路218	弥生末～古墳初	16	
3	土器	壺	15.2	2.95以上	ナデ	長石 チャート	10YR8/2灰白	良	流路218	弥生末～古墳初	16	4
4	土器	壺	18.2	2.8以上	ハケメ ナデ	長石 石英 チャート	10YR7/3黄橙	良	流路218	弥生末～古墳初	16	4
5	土器	壺	14.0	8.8以上	ナデ	長石 チャート	2.5YR6/6橙	良	流路218	弥生末～古墳初	16	5
6	土器	壺	18.5	2.45以上	ナデ	長石 チャート	7.5YR8/3浅黄橙	やや軟	流路218	弥生末～古墳初	16	4
7	土器	壺	14.2	4.45以上	刻目文	長石 チャート	7.5YR8/4浅黄橙	良	流路218	弥生末～古墳初	16	4
8	土器	壺	13.2	5.8以上	ハケメ	長石 石英 チャート	7.5YR7/3にぶい橙	良	流路218	弥生末～古墳初	16	4
9	土器	壺	13.2	8.5以上	ハケメ 突帯 押圧文	長石 チャート	2.5Y8/1灰白	良	流路218	弥生末～古墳初	16	5
10	土器	壺	10.6	6.1以上	タタキ ハケメ	長石 チャート	7.5YR7/4にぶい橙	良	流路218	弥生末～古墳初	16	4
11	土器	壺	不明	1.45以上	ナデ	長石 チャート	5YR7/4にぶい橙	良	流路218	弥生末～古墳初	16	4
12	土器	壺	不明	1.7以上	ナデ	長石 チャート	10YR5/2灰黄褐	良	流路218	弥生末～古墳初	16	4
13	土器	壺	不明	1.6以上	ナデ	長石 チャート	7.5YR7/6橙	良	流路218	弥生末～古墳初	16	4
14	土器	壺	不明	3.8以上	ナデ	長石 石英 チャート	10YR7/2にぶい黄橙	良	流路218	弥生末～古墳初	16	4
15	土器	壺	30.6	5.4以上	ナデ	長石 チャート	10YR5/2灰黄褐	良	流路218	弥生末～古墳初	16	4
16	土器	壺	腹径23.7	15.3以上	ナデ ハケメ ミガキ	長石 石英 チャート	5YR7/4にぶい橙	良	流路218	弥生末～古墳初	16	4
17	土器	壺	腹径10.7	4.9以上	ナデ	長石 石英 チャート 赤色粒子	5YR5/6明赤褐	やや軟	土坑23	弥生末～古墳初	16	4
18	土器	壺	頸径8.9	3.9以上	櫛描直線文 波状文 押圧文	長石 石英 チャート	10YR7/2にぶい黄橙	良	土坑37	弥生末～古墳初	16	4
19	土器	壺	底径4.1	3.1以上	ナデ	長石 チャート	10YR8/1灰白	良	土坑120	弥生末～古墳初	16	4
20	土器	壺	底径3.6	2.35以上	ナデ	長石 チャート	2.5Y8/1灰白	良	流路218	弥生末～古墳初	16	4
21	土器	壺	底径4.4	3.1以上	ハケメ タタキ ナデ	長石 石英 チャート	2.5Y8/1灰白	良	検出中	弥生末～古墳初	16	
22	土器	壺	底径5.2	4.45以上	刻目文 ナデ	石英 チャート	7.5YR8/4浅黄橙	良	流路218	弥生末～古墳初	16	4
23	土器	甕	13.0	4.7以上	ナデ タタキ	長石 チャート	7.5YR8/6浅黄橙	良	流路218	弥生末～古墳初	17	4
24	土器	甕	13.2	4.4以上	ナデ	長石 チャート	2.5Y8/4浅黄	やや軟	流路218	弥生末～古墳初	17	4
25	土器	甕	18.1	2.4以上	ナデ	長石 チャート	5YR7/4にぶい橙	やや軟	流路218	弥生末～古墳初	17	4
26	土器	甕	15.1	3.4以上	タタキ ケズリ	長石 石英 チャート 角閃石	10YR4/1褐灰	良	流路218	弥生末～古墳初	17	4
27	土器	甕	15.8	3.1以上	ケズリ ナデ	長石 チャート	2.5Y5/2暗灰黄	良	流路218	弥生末～古墳初	17	
28	土器	甕	18.5	3.65以上	ケズリ ナデ ハケメ	長石 石英 チャート	2.5Y5/2暗灰黄	良	流路218	弥生末～古墳初	17	4
29	土器	甕	9.9	7.05以上	ケズリ ナデ ハケメ	長石 チャート	7.5YR7/4にぶい橙	良	流路218	弥生末～古墳初	17	4
30	土器	甕	18.8	3.5以上	ケズリ ナデ ハケメ	長石 石英 チャート 赤色粒子	5YR7/6橙	良	土坑74	弥生末～古墳初	17	4
31	土器	甕	腹径23.6	24.85以上	ハケメ ナデ	長石 チャート	5Y8/1灰白	良	土坑74	弥生末～古墳初	17	5
32	土器	甕	底径3.3	3.65以上	タタキ ナデ	長石 チャート	5Y2/1黒	良	流路218	弥生末～古墳初	17	4
33	土器	甕	底径3.8	4.0以上	タタキ ナデ ハケメ	長石 石英 チャート	7.5YR8/4浅黄橙	良	検出中	弥生末～古墳初	17	4
34	土器	甕	底径4.8	7.15以上	ハケメ ナデ	長石 チャート	7.5YR6/4にぶい橙	良	流路218	弥生末～古墳初	17	4
35	土器	甕	底径3.9	15.5以上	ハケメ ナデ	長石 雲母	2.5Y8/1灰白	良	流路218	弥生末～古墳初	17	4
36	土器	甕	底径2.75	3.2以上	ナデ	長石 チャート	5YR6/6橙	良	土坑121	弥生末～古墳初	17	4
37	土器	甕	底径3.8	2.6以上	ナデ	長石 チャート	5Y7/1灰白	良	流路218	弥生末～古墳初	17	4
38	土器	甕	底径5.6	2.4以上	ナデ	長石 チャート	2.5Y5/2暗灰黄	良	流路218	弥生末～古墳初	17	4
39	土器	甕	底径6.0	2.5以上	ナデ	長石 チャート	2.5Y8/2灰白	良	流路218	弥生末～古墳初	17	4

番号	器種	器形	口径 (cm)	器高 (cm)	調整	胎土	色調	焼成	遺構名	時代	挿図	図版
40	土器	甕	不明	4.6以上	ナデ	長石 チャート	2.5Y8/1灰白	良	流路218	弥生末～古墳初	17	
41	土器	甕	脚台径5.7	5.95以上	ナデ	長石 チャート	2.5Y8/2灰白	良	流路218	弥生末～古墳初	17	
42	土器	甕	脚台径9.4	3.2以上	ナデ	長石 石英 チャート	7.5YR7/3浅黄	良	検出中	弥生末～古墳初	17	
43	土器	高杯	12.7	3.2以上	ナデ	長石 チャート	2.5Y7/2灰黄	良	流路218	弥生末～古墳初	18	
44	土器	高杯	20.5	3.05以上	ナデ	長石 石英 チャート	2.5Y8/3浅黄	良	流路218	弥生末～古墳初	18	
45	土器	高杯	脚径12.1	8.05以上	ハケメ ナデ	長石 雲母 チャート	2.5Y7/3浅黄	良	流路218	弥生末～古墳初	18	4
46	土器	高杯	不明	3.9以上	ナデ	長石 チャート	10YR8/1灰白	良	土坑193	弥生末～古墳初	18	4
47	土器	高杯	不明	5.59以上	ナデ	長石 チャート	5YR7/4にぶい橙	良	土坑218	弥生末～古墳初	18	4
48	土器	高杯	不明	8.1以上	ハケメ ナデ	長石 赤色粒子 チャート	5YR8/4淡橙	良	土坑36	弥生末～古墳初	18	4
49	土器	高杯	不明	7.0以上	ハケメ ナデ	長石 雲母 チャート	2.5Y7/2灰黄	良	流路218	弥生末～古墳初	18	4
50	土器	高杯	不明	6.3以上	ナデ	長石 チャート	5YR6/6橙	良	土坑120	弥生末～古墳初	18	4
51	土器	器台	9.1	6.2以上	ナデ	長石 雲母 チャート	5YR7/4にぶい橙		流路218	弥生末～古墳初	18	5
52	土器	器台	9.8	8.0以上	ミガキ ナデ	長石 チャート	7.5YR7/6橙	良	流路218	弥生末～古墳初	18	
53	土器	器台	不明	2.0以上	ナデ	長石 チャート	10YR8/2灰白	良	流路218	弥生末～古墳初	18	
54	土器	器台	脚径10.9	7.5	ナデ	長石 チャート	5YR7/6橙	良	流路218	弥生末～古墳初	18	5
55	土器	器台	不明	2.9以上	ハケメ ミガキ	長石 石英 チャート	7.5YR8/6浅黄橙	良	流路218	弥生末～古墳初	18	
56	土器	器台	脚径15.4	2.4以上	ナデ	長石 チャート	2.5Y8/1灰白	良	流路218	弥生末～古墳初	18	
57	土器	器台	脚径13.8	3.8以上	ナデ	長石 石英 チャート	10YR8/1灰白	良	土坑28	弥生末～古墳初	18	
58	土器	器台	脚径12.2	7.3以上	ミガキ ナデ	長石 石英 チャート	10YR8/2灰白	良	検出中	弥生末～古墳初	18	5
59	土器	蓋	3.5	6.5	ナデ ミガキ	長石 石英 チャート	7.5YR7/4にぶい橙	良	検出中	弥生	18	5
60	土器	鉢	18.8	3.2以上	ナデ	長石 石英 チャート	2.5YR4/1赤灰	良	土坑112	弥生	18	
61	土製品	土錘	長径2.9	短径1.0		長石 チャート	10YR6/2灰赤	良	土坑25	弥生末～古墳初	18	5
62	土製品	土錘	長径4.9	短径1.4		長石 チャート	10YR6/2灰赤	良	土坑81	弥生末～古墳初	18	5
63	土製品	土錘	長径5.2	短径1.4		長石 チャート	2.5Y8/1灰白	良	土坑163	弥生末～古墳初	18	5
64	土師器	高杯	不明	14.8以上	ケズリ	長石 石英 チャート	7.5YR8/2灰白	良	灰黄褐色砂泥	平安前期	19	
65	土師器	高杯	不明	9.6以上	ケズリ	長石 チャート	10YR8/1灰白	良	灰黄褐色砂泥	平安中期	19	
66	青磁	鉢	高台径8.4	3.8以上	輪花 ロクロ	密	10Y5/2オリーブ灰	良	灰黄褐色砂泥	平安前期	19	
67	土師器	皿	8.8	1.6	ナデ	長石 金雲母 黒色粒子	10YR7/2にぶい黄橙	良	井戸200	平安後期	20	
68	土師器	皿	9.4	1.7	ナデ	長石 チャート	2.5Y8/3淡黄	良	井戸200	平安後期	20	
69	土師器	皿	13.6	2.6	ナデ	長石 金雲母 黒色粒子	2.5Y7/2灰黄	良	井戸200	平安後期	20	
70	土師器	皿	12.6	2.5	ナデ	長石 金雲母 黒色 赤色粒子	7.5YR7/4にぶい橙	良	井戸200	平安後期	20	
71	土師器	皿	14.8	2.7	ナデ	長石 金雲母 黒色粒子	10YR7/3黄橙	良	井戸200	平安後期	20	
72	土師器	皿	14.8	2.3	ナデ	長石 雲母 チャート	10YR8/4浅黄橙	良	井戸200	平安後期	20	
73	瓦器	椀	15.4	2.9	ミガキ ナデ	長石	N4/0灰	良	井戸200	平安後期	20	
74	青磁	皿	9.0	2.5		密	2.5Y7/2灰黄	良	井戸200	平安後期	20	
75	白磁	椀	14.8	3.0以上		密	2.5GY8/1灰白	良	井戸200	平安後期	20	
76	白磁	椀	高台径5.4	2.7以上		密	5Y7/1灰白	良	井戸200	平安後期	20	
77	白磁	鉢	高台径7.6	3.4以上		密	2.5Y7/2灰白	良	井戸200	平安後期	20	
78	須恵器	甕	18.6	5.7	タタキ カキメ	長石 石英 チャート	N5/灰	良	井戸200	平安後期	20	

番号	器種	器形	口径 (cm)	器高 (cm)	調整	胎土	色調	焼成	遺構名	時代	挿図	図版
79	須恵器	甕	不明	10.05以上	ロクロ ケズリ ナデ	長石 石英 チャート	5Y5/1灰	良	井戸200	平安後期	20	
80	土師器	皿	6.4	1.9	ナデ	長石 チャート	2.5Y8/2灰白	良	土坑203	室町前期	20	
81	土師器	皿	7.0	2.0	ナデ	長石 チャート	10YR8/3浅黄橙	良	土坑203	室町前期	20	
82	土師器	皿	6.3	2.3	ナデ	長石 チャート	7.5YR8/4浅黄橙	良	土坑203	室町前期	20	
83	土師器	皿	7.2	1.9	ナデ	長石 チャート	2.5Y8/3淡黄	良	土坑203	室町前期	20	
84	土師器	皿	9.2	1.9	ナデ	長石 チャート	2.5Y8/2灰白	良	土坑203	室町前期	20	
85	土師器	皿	9.2	1.9	ナデ	長石 チャート	2.5Y4/1黄灰	良	土坑203	室町前期	20	
86	土師器	皿	9.3	2.3	ナデ	長石 チャート	2.5Y7/3浅黄	良	土坑203	室町前期	20	
87	土師器	皿	12.8	3.1	ナデ	長石 チャート	10YR8/3浅黄橙	良	土坑203	室町前期	20	
88	土師器	皿	12.6	3.4	ナデ	長石 チャート	2.5Y8/3淡黄	良	土坑203	室町前期	20	
89	土師器	皿	13.2	3.3	ナデ	長石 チャート	10YR8/3浅黄橙	良	土坑203	室町前期	20	
90	須恵質陶器	椀	13.5	3.5	ロクロ 貼り付け高台	長石 チャート	2.5Y7/1灰白	良	土坑203	室町前期	20	
91	須恵質陶器	鉢	26.0	10.0	ロクロ	長石 チャート	5Y6/1灰	良	土坑203	室町前期	20	
92	土師器	皿	6.7	2.0	ナデ	長石 チャート	7.5YR8/4浅黄橙	良	井戸130	室町前期	20	
93	土師器	皿	7.5	1.8	ナデ	長石 チャート	7.5YR8/4浅黄橙	良	井戸130	室町前期	20	
94	土師器	皿	7.8	2.2	ナデ	長石 チャート	10YR8/2灰白	良	井戸130	室町前期	20	
95	土師器	皿	9.6	2.0	ナデ	長石 チャート	10YR7/4にぶい黄橙	良	井戸130	室町前期	20	
96	土師器	皿	10.5	2.1	ナデ	長石 チャート	10YR7/4にぶい黄橙	良	井戸130	室町前期	20	
97	土師器	皿	13.7	3.6	ナデ	長石 チャート	7.5YR8/4浅黄橙	良	井戸130	室町前期	20	
98	土師器	皿	13.7	3.9	ナデ	長石 チャート	7.5YR8/4浅黄橙	良	井戸130	室町前期	20	
99	土師器	皿	10.8	2.2	ナデ	長石 チャート	10YR8/3浅黄橙	良	井戸53	江戸前期	20	
100	土師器	皿	12.1	2.2	ナデ	長石 チャート	7.5YR4/1褐灰	良	井戸53	江戸前期	20	
101	土師質土器	塩壺	5.2	8.9	ナデ	長石 チャート	5YR6/6橙	良	井戸53	江戸前期	20	
102	施釉陶器	鉢	15.1	8.1	ロクロ	長石 チャート	釉10YR7/2にぶい 黄橙	良	井戸53	江戸前期	20	
103	土師器	皿	8.7	1.9	ナデ	長石 チャート	7.5YR7/6橙	良	井戸26	江戸中期	20	
104	土師器	皿	10.6	6.8	ナデ	長石 チャート	7.5YR7/6橙	良	井戸26	江戸中期	20	
105	染付磁器	椀	14.7	7.7	ロクロ	密	釉N8/0灰白	良	井戸26	江戸中期	20	
106	施釉陶器	椀	9.0	6.8	ロクロ	密	釉5Y7/2灰白	良	土坑48	江戸前期	21	
107	染付磁器	椀	10.0	5.9	ロクロ	密	釉10Y8/1灰白	良	土坑48	江戸前期	21	
108	染付磁器	椀	9.7	5.5	ロクロ	密	釉10GY8/1明緑灰	良	土坑48	江戸前期	21	
109	色絵磁器	椀	15.4	6.8	ロクロ	密	釉N8/0灰白	良	土坑48	江戸前期	21	
110	施釉陶器	壺	5.5	10.9	ロクロ 糸切り底	長石 チャート	2.5Y7/1灰白	良	土坑48	江戸前期	21	
111	施釉陶器	鉢	11.6	4.7	ロクロ	長石 チャート 赤色粒子	10YR7/4にぶい黄橙	良	土坑88	江戸前期	21	
112	施釉陶器	香合	4.5	2.1	ロクロ	密	釉5G6/1緑灰	良	土坑90	江戸前期	21	
113	白磁	鉢	14.2	4.6	ロクロ	密	釉N8/0灰白	良	土坑33	江戸中期	22	
114	染付磁器	鉢	10.4	8.1	ロクロ	密	釉10GY8/1明緑灰	良	土坑38	江戸中期	22	
115	施釉陶器	椀	12.3	4.9	ロクロ	密	釉2.5Y8/3淡黄	良	土坑42	江戸中期	22	
116	染付磁器	椀	6.2	4.9	ロクロ	密	釉2.5GY8/1灰白	良	土坑42	江戸中期	22	
117	染付磁器	蓋	5.7	3.0	ロクロ	密	釉2.5GY8/1灰白	良	土坑42	江戸中期	22	

番号	器種	器形	口径 (cm)	器高 (cm)	調整	胎土	色調	焼成	遺構名	時代	挿図	図版
118	染付磁器	皿	13.3	5.5	ロクロ	密	釉7.5Y7/1灰白	良	土坑42	江戸中期	22	
119	染付磁器	椀	8.4	3.7	ロクロ	密	釉10Y8/1灰白	良	土坑42	江戸中期	22	
120	染付磁器	椀	8.3	5.6	ロクロ	密	釉10Y8/1灰白	良	土坑42	江戸中期	22	
121	染付磁器	椀	9.9	5.8	ロクロ	密	釉5GY8/1灰白	良	土坑42	江戸中期	22	
122	染付磁器	椀	8.4	3.7	ロクロ	密	釉10Y8/1灰白	良	土坑42	江戸中期	22	
123	染付磁器	皿	7.1	2.8	ロクロ	密	釉5GY8/1灰白	良	土坑42	江戸中期	22	
124	染付磁器	椀	12.4	4.7	ロクロ	密	釉7.5GY7/1明緑灰	良	井戸29	江戸中期	22	
125	施釉陶器	皿	長径11.1	2.5	ロクロ	密		良	土坑92	江戸中期	22	
126	施釉陶器	小椀	6.7	4.0	ロクロ	長石 チャート 黒色粒子	釉10Y6/2オリーブ灰	良	土坑10	江戸中期	22	
127	染付磁器	椀	9.8	7.1	ロクロ	密	釉7.5Y5/1灰	良	土坑23	江戸後期	23	
128	染付磁器	椀	10.0	4.1	ロクロ	密	N8/0灰白	良	土坑23	江戸後期	23	
129	染付磁器	椀	8.5	4.9	ロクロ	密	釉7.5Y7/1灰白	良	土坑23	江戸後期	23	
130	染付磁器	椀	6.9	5.0	ロクロ	密	釉N8/0灰白	良	土坑23	江戸後期	23	
131	染付磁器	椀	9.9	5.4	ロクロ	密	釉7.5Y8/2灰白	良	土坑36	江戸後期	23	
132	染付磁器	椀	7.2	5.3	ロクロ	密	釉10GY8/1明緑灰	良	土坑36	江戸後期	23	
133	土師質土器	壺	7.7	7.3	ナデ 刻印	長石 金雲母 黒色粒子	7.5YR6/4にぶい褐	良	土坑37	江戸後期	23	
134	青磁	皿	9.8	3.5	ロクロ	密	釉10GY7/1明緑灰	良	土坑37	江戸後期	23	
135	染付磁器	小椀	3.9	1.8	ロクロ	密	釉5GY8/1灰白	良	土坑37	江戸後期	23	
136	施釉陶器	椀	9.7	5.9	ロクロ	密	釉10YR8/1灰白	良	土坑36	江戸後期	23	
137	染付磁器	皿	9.4	4.0	ロクロ	密	釉7.5GY7/1明緑灰	良	土坑36	江戸後期	23	

版 图

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょうさきょうごじょうさんぼうごちょうあと・からすまあやのこうじいせき							
書名	平安京左京五条三坊五町跡・烏丸綾小路遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2008-9							
編著者名	平田 泰							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2008年10月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうさきょうごじょう 平安京左京五条 さんぼうごちょうあと・ 三坊五町跡・ からすまあやのこうじいせき 烏丸綾小路遺跡	きょうとししもぎょうく 京都市下京区 たかつじどおりむろまちなし 高辻通室町西 いるはんじょうちょう 入繁昌町290 ばんち 番地	26100	712	35度 00分 00秒	135度 45分 25秒	2008年3月 7日～2008 年5月26日	210m ²	耐震防火 水槽建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京左京五条 三坊五町跡	都城跡	弥生時代末～ 古墳時代初め	流路	弥生土器、土師器				
烏丸綾小路遺跡	集落跡	平安時代後期 ～室町時代	井戸、土坑、柱穴	土師器、須恵器、瓦器				
		桃山時代～ 江戸時代	井戸、土坑、柱穴	土師器、陶器、磁器				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-9
平安京左京五条三坊五町跡・
烏丸綾小路遺跡

発行日 2008年10月31日

編集 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
発行

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1
〒 602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地
〒 604-0093 TEL 075-256-0961